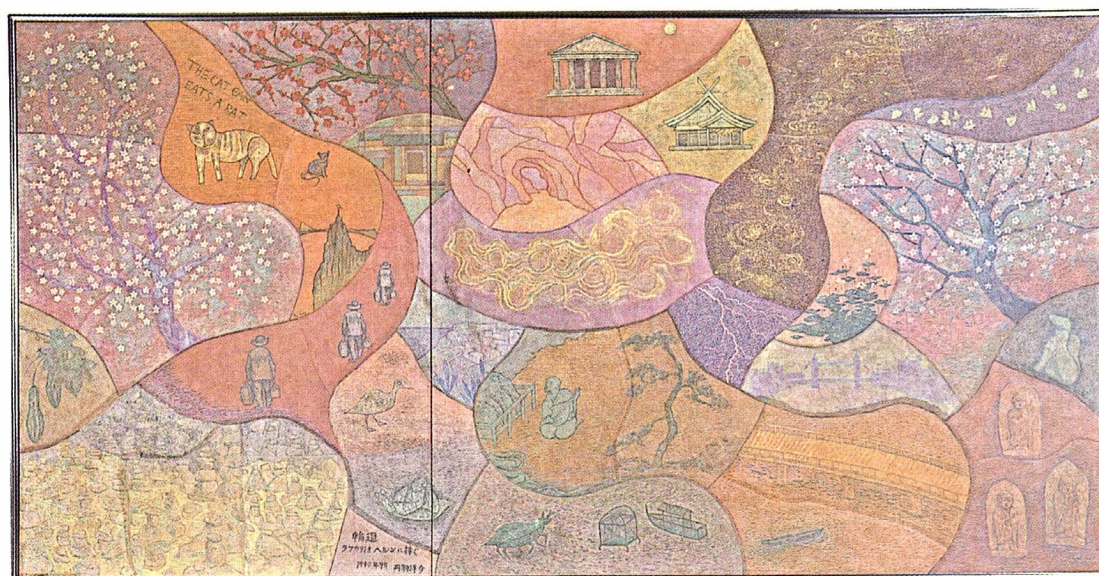




(題字 大井信一 学長)

第321号

(平成2年10月・11月合併号)



▲ 附属図書館ヘルン文庫前壁に完成したフレスコ壁画「輪廻」

目 次

学 内 諸 報	関 係 法 令	27
◆ 附属図書館にフレスコ壁画が完成	諸 会 議	27
◆ 平成2年度東日本地区国語問題研究協議会の開催	学 内 規 則	
◆ 平成2年度15大学事務局長会議の開催	◆ 富山大学教養部規則の一部改正	29
◆ 高等学校長協会、高校進路指導担当教諭との懇談会の実施	レクリエーション	
◆ 共済組合主催で「地引き網」と「美女平ハイク」を実施	◆ 平成2年度教職員文化展	30
◆ 平成2年度公開講座「激動の世界—ソ連・東欧を中心に—」の実施	◆ 平成2年度学内野球大会	31
◆ 文部省永年勤続者の表彰	◆ 平成2年度学内バドミントン大会	31
◆ 学術講演会の開催	◆ 平成2年度学内卓球大会	32
人 事 異 動	海 外 渡 航 者	33
学 事	討 報	35
◆ 平成3年度富山大学学生募集要項の発表	職 員 消 息	36
◆ 平成2年度科学研究費補助金追加交付内定者の決定	—シリーズ— 郵便豆知識 ⑤	37
◆ 平成4年度入学試験の定員割り振り及び実施教科・科目等を公表	主 要 行 事	40
学内トピックス		
寄稿 海外レポート		
◆ 「遼寧大学を訪問して」		25
— 人文学部助教授 檀上 寛 —		



(表紙写真上)

五福キャンパスからの北アルプス立山連峰の眺望

附属図書館ヘルン文庫前壁面に

フレスコ壁画「輪廻」が完成

—— 教育学部丹羽教授の制作 ——

このほど、附属図書館本館の2階の「ヘルン文庫」入口前の壁面に、フレスコ壁画が据え付けられました。（表紙写真）

この壁画は、本学教育学部丹羽洋介教授（担当科目 絵画）の制作によるもので、ヘルン文庫の前壁面という環境にふさわしい知的で落ち着いた装飾をとの思いから、「怪談」の著者としてだけでなく、ヘルンの深遠でユニークな思想（ヨーロッパと日本文化の融合した）とその生き方が、視覚的に美しく表現されて

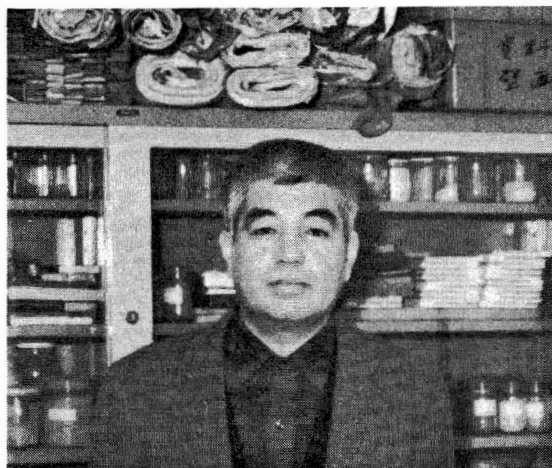


▲ 壁画「輪廻」の完成で一段と格調高くなったヘルン文庫前ロビー

います。

縦204cm、横397cmのこのフレスコ壁画には、ヘルンにまつわる「耳無芳一の話」、「ギリシャ神殿」、「松江の旧居」など大小25の事象が鮮やかに描かれ、附属図書館2階のヘルン文庫前のロビーの格調が一段とグレードアップした感じで、附属図書館利用者の目を大いに楽しませてくれています。

ちなみに、本学ヘルン文庫には、Lafcadio Hearn（日本に帰化して小泉八雲と称す。）の所蔵していた洋書2,069冊、和漢書364冊及び「神国日本」の手書き原稿1,200枚（上下2冊）、合計2,435冊が収蔵されています。ヘルンの蔵書がこれほど大量に収められている文庫は他になく、ヘルン研究に寄与するところは非常に大きいものがあります。



▲ 壁画によってヘルン文庫の存在がもっと知られ親しまれるよう願っていると語る制作者の教育学部丹羽教授

なお、フレスコやモザイクなど伝統的壁画技法を研究され、実制作を通して学内外で文化的環境づくりに取り組まれている丹羽教授の本学キャンパス内の作品としては、これまで

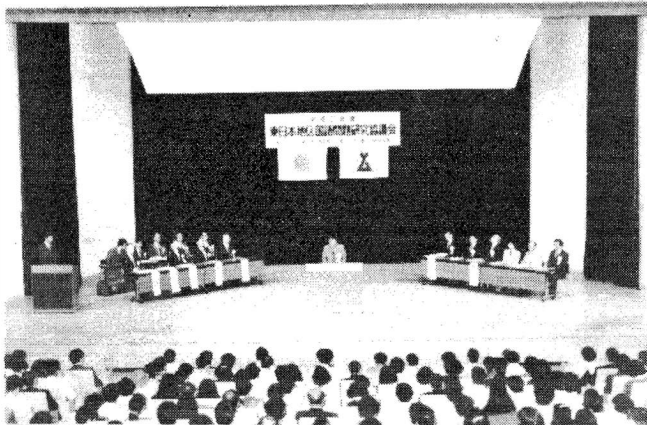
- ① 工学部管理棟正面玄関ホール壁面の「無限の創造」
- ② 工学部福利厚生棟喫茶室壁面の「三美神」
- ③ 教育学部玄関壁面の「生命の樹」
- ④ 人文学部語学文学科教棟玄関ホール壁面の「思索の森」の4大作があり、これに次いで、第5

番目としてこのたび、附属図書館2階ヘルン文庫入口前壁面に「輪廻」が完成したことになりますが、更にキャンパスの何処に丹羽教授の次の壁画が出来上がるか、今後の楽しみとなっています。

— 平成 2 年度東日本地区 —

国語問題研究協議会が開催される

去る10月1日(月)、2日(火)の両日、文化庁、富山県教育委員会、富山大学、富山市教育委員会の共催で、平成2年度東日本地区国語問題研究協議会が本学を会場に開催されました。



▲ 本学黒田講堂で行われた開会式

この協議会は、我が国の国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方策等について研究協議し、国語に関する関心を高めるとともに国語施策の充実に資することを目的に、東日本地区23都道府県を参加範囲として年1回各県持ち回りで開催されています。

今年度は、富山県が当番県となり鋭意開催準備が進められ、新装なった本学黒田講堂を主会場とし、部会の会場等を教育学部に置き、次の日程で協議が行われました。

9:00		9:30		10:00		11:00		12:00		13:00		16:00		16:30	
第一日	受付	開会式	国語施策の改善についての説明 (質疑応答)		「美しく豊かな言葉をめざして」 (ビデオシリーズの紹介と上映)		昼食	部会協議				打合せ			
9:00		9:30		12:00		13:00		14:00		15:30		16:00			
第二日	受付	部会協議		昼食	全体協議		講演 「言語生活の設計と課題」		閉会式						



▲ 国語施策の改善について説明する文化庁国語課七五三掛課長補佐

本協議会には、学校の教職員等で国語の指導に関係のある者、社会教育・報道・出版等関係者で国語に関する諸問題に関係のある者並びに国及び地方公共団体の職員で公文書の作成に関する指導または広報資料の作成に携わる者、約250名の参加があり、①「現代仮名遣い」について、②「常用漢字表」について、③外来語の表記について、④社会生活における国語をめぐる諸問題についての4主題に関して、部会・全体協議を通して熱心に協議されました。

本学当番で

平成2年度15大学事務局長会議が 開催される

去る11月1日(木)、2日(金)本学が当番大学となり、平成2年度15大学事務局長会議が本学事務局会議室において開催されました。

この会議は、国立大学で夜間の課程又は夜間主コースを置いている15大学の事務局長が構成員となって、年1回共通する問題について協議が行われるものです。



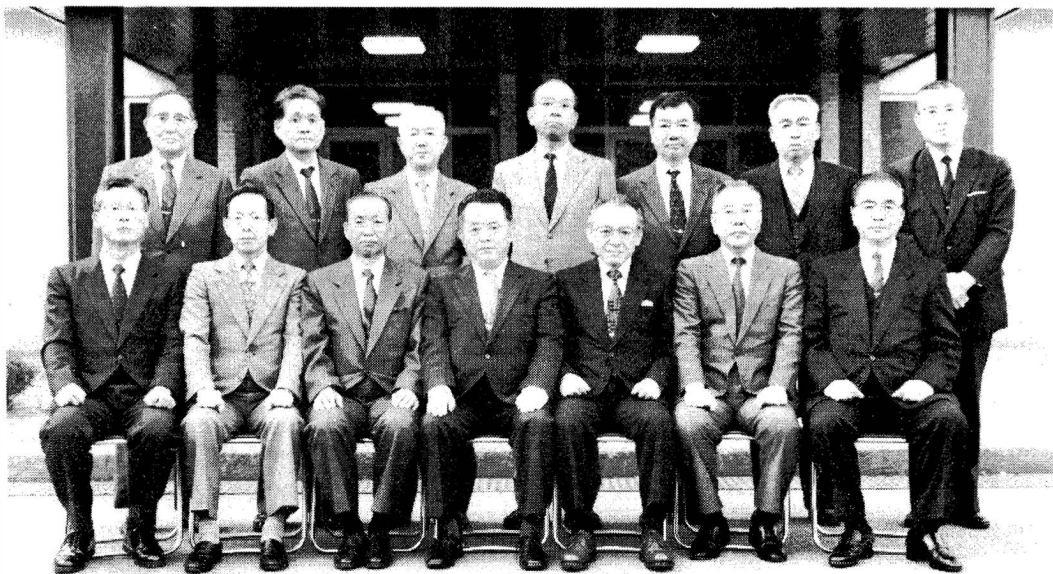
▲ 本学勝山事務局長を議長に突っ込んだ意見交換が行われる

今年度の会議は、大井学長の歓迎の挨拶に始まり、「修士課程の昼夜開講制における問題点について」を協議題として会議が行われました。昭和63年12月の大学審議会答申に基づく大学院設置基準の一部改正（平成元年文部省令第34号）に伴い、大学院制度の弾力化が図られたことを踏まえて、各大学の研究科の実情が紹介され、①社会人を積極的に受け入れるための入学者選抜方法 ②昼夜開講に伴うカリキュラム履修の方法と研究指導体制 ③管理運営等の問題点 について情報交換及び意見交換が行われ、今後に資することになりました。

また、会議後、秘境黒部峡谷の探勝と黒四の地下発電所の見学をし、富山を後にされました。

なお、会議の構成大学は次のとおりです。

室蘭工業大学	大阪外国語大学
山形大学	大阪教育大学
福島大学	神戸大学
千葉大学	岡山大学
電気通信大学	広島大学
横浜国立大学	愛媛大学
富山大学	九州工業大学
名古屋工業大学	(以上15大学)



▲ 事務局玄関前に勢揃いし記念撮影する出席大学事務局長

入学者選抜試験に関して

高等学校長協会、高等学校進路指導担当教諭との 懇談会がそれぞれ開催される!!

高等学校長協会と大学との懇談会

平成2年度高等学校長協会と大学との懇談会が去る10月2日（火）午後2時から本学事務局大会議室において開催されました。

この懇談会は、入学試験に関して、富山・石川両県の高等学校長と大学が懇談するもので、両県高等学校長協会から27名が出席され、本学からは、学長・学生部長・各学部長・教養部長が出席し、懇談が行われました。

懇談会では、学長の開会の挨拶に始まり、平成3年度入学試験の概要について説明を行いました。引き続き、高等学校側からの質疑要望事項に対して大学側から説明するとともに、大学側からの要望事項に対して高等学校側から説明がありました。また、特に平成4年度入学試験から導入することになった分離分割方式に対する要望も出され、種々意見の交換が行われ、有意義な懇談会となりました。

高等学校進路指導担当教諭と大学との懇談会

また、去る11月16日（金）午後1時30分から富山大学黒田講堂会議室において、平成3年度富山大学入学試験に関する高等学校と大学との懇談会が開催されました。

この懇談会は、高等学校の進路指導担当教諭に本学の入学試験等についてより一層理解を深めていただくため毎年開催しているもので、県内から47名の教諭の参加があり、新たに導入された推薦入学の実施方法等について、熱心に懇談が行われました。



▲ 進路指導担当高校教諭と熱心な質疑が交された
懇談会（平成2. 11. 16. 黒田講堂会議室）

好評を博した共済組合主催事業

“地引き網”と“美女平ハイク”

平成2年度文部省共済組合富山大学支部の主催事業として、このたび、「地引き網」と「美女平ハイキング」が実施され、参加された教職員とその家族の皆さんには、行楽の秋を十分満喫され楽しい思い出となりました。

〔地引き網〕

(期 日) 平成2年10月7日(日)
 (場 所) 松田江浜海水浴場(氷見市)
 (参加人数) 教職員及びその家族合わせて80名
 (日 程) 7:00 集合
 7:10 地引き網
 8:30 大漁鍋
 10:30 後片付け
 10:45 解散



大漁鍋に満足して談笑する参加者

大勢のチビッコの参加で盛り上がった地引き網を終えて全員で記念のスナップ



“地引き網”は昨年に次いで2度目の実施で、参加者がかたずを呑んで見守るなかを引き上げられた網には、小鯛や細魚が持ち帰りできるほど大漁に獲れ、一同歓喜の声を上げました。早速、参加者の協力により活魚を料理し「大漁鍋」がつくられ、細魚の刺身とともに車座になって腹一杯賞味し、早朝の集合で多少寒かった朝も、解散時には大漁鍋で暖まった身体に満腹感が漂い、心地よい気分になりながら地引き網の醍醐味を味わっていました。

〔美女平ハイキング〕

(期 日) 平成2年10月21日(日)
 (場 所) 美女平探鳥コース
 (参加人員) 教職員及びその家族合わせて40名



紅葉したブナの原生林(神秘の森)に歩を運ぶ参加者

美女平探鳥コースの散策に感激した参加者全員で記念のスナップ



(日 程) 8:40 立山 駅集合
 9:10 " 発(立山ケーブル)
 9:17 美女平到着(")
 9:30 美女平散策
 12:30 昼食
 13:40 美女平駅発(立山ケーブル)
 13:47 立山 駅着(")
 13:50 解散

当日は、絶好の好天に恵まれ標高1,000mの美女平は紅葉のピークで、ブナ、トチ、ナナカマド等の原始林の紅葉と立山杉のコントラストは素晴らしく、参加者一同大自然の偉容さに深い感銘を受けました。

美女平探鳥コースは、立山の溶岩台地弥陀ヶ原高原の最先端にあって、全国森林浴の森百選に選ばれた神秘の森で、この原始林をすみかとしたオオルリ、コマドリ、キビタキ、ウグイスなど60種類を越す野鳥の観察ができます。

登山道を一步入った探鳥コースの散策では、同行していただいた富山県自然解説員(ナチュラリスト)長谷川 貢氏(北日本新聞社勤務)の懇切・丁寧な解説のもとに、黄色く紅葉したブナと真紅に紅葉したナナカマドが混在する大原生林の中、野鳥のさえずりに耳を傾け約2時間30分かけて、ゆく秋を十分満喫しました。

また、この「美女平ハイキング」には、本学職員山岳班の協力もあり心地よい秋風に汗した後、収穫したこけ汁で昼食をとり、参加教職員の親睦と親子の触れ合いを深める絶好の機会となりました。そして、立山の大自然の壮大さに感嘆させられた一日でした。

黒田講堂会議室を会場に

平成2年度富山大学公開講座

今年度はソ連・東欧問題と取り組む

平成2年度富山大学公開講座「激動の世界—ソ連・東欧を中心に—」が9月22日を皮切りに11月24日までの毎週土曜日（祝日を除く）の午後、黒田講堂会議室において実施されました。

ソ連・東欧の激動とそれが与える日本を含む世界中への影響については、昨年来毎日といって良いほどニュース等で取り上げられていますが、そのソ連・東欧における改革とその意味を9回にわたる本講座の中で8人の講師の方々が各自の専門分野からの視点—歴史、政治、経済、文化等—で懇切・丁寧かつ熱心に解説されました。

受講者も様々な経歴・職業から近年まれにみる人数が集まり（受講申込者数62名）その真摯な受講ぶりから、取り上げたテーマに対する問題意識の高さが感じられました。

なお、9日間にわたって実施された受講内容は次のとおりでした。



▲ 資料をふんだんに使った丁寧な講義(教育学部遠藤助教授)



▲ 静かなそして熱気のこもる受講風景

回数	期 日	講 座 題 目	講 師 氏 名	所 属・職 名
1	9月22日(土)	ペレストロイカーその現状と歴史的意味—	藤 井 一 行	人文学部教 授
2	9月29日(土)	ソ連型社会主義と民主主義	大 藪 龍 介	教 養 部 教 授
3	10月6日(土)	「ソ連型、経営管理方式」の功罪	森 岡 裕	経済学部助教授
4	10月13日(土)	社会主義下の芸術の潮流	遠 藤 幸 一	教育学部助教授
5	10月20日(土)	生活の豊かさを考える—チェルノブイリから見えてきたもの—	淡 川 典 子	教育学部助教授
6	10月27日(土)	ユダヤ文学の故郷としての東欧	大工原 ちなみ	人文学部助教授
7	11月10日(土)	東欧問題と民主主義、人権	篠 原 巖	経済学部助教授
8	11月17日(土)	ソ連・東欧の変化とアジア	立 川 健 治	教 養 部 助 教 授
9	11月24日(土)	パネルディスカッション	講 師 全 員	

文部省永年勤続者の表彰

文部省永年勤続者として、次の方が表彰され、平成2年11月27日（火）午前11時45分から学長室において、大井信一学長から表彰状が伝達されました。

20年勤続表彰 附属図書館事務長 森 慶二



▲ 大井学長から表彰状の伝達を受ける
附属図書館 森 事務長

◁ 冬期積雪時における構内交通 規制に協力を!! ▷

今年は暖冬とはいえ、厳しい冬将軍がいつ到来してもおかしくない季節となっています。ついでには、本学五福地区構内における冬期積雪時の交通規制が、次のとおり定められていますので十分注意して、規制に支障を来さないよう御協力願います。

1. 冬期積雪時、特に大雪注意報が発令されると予想される場合は、車両による通勤通学は自粛するものとする。
2. 車両の駐車は、除雪の支障にならないよう注意する。
3. 大雪及び除雪作業等で車両の入構を規制したり、禁止したりする場合は、掲示する。
4. 積雪時は、各部局前の外来駐車帯に車両を駐車させることができる。
5. 夜間は、管理・研究教育等に従事する者及び夜間主コース学生等以外は構内に車両を駐車させることができない。また、降雪時においては、翌日にかけての駐車は原則として認めない。
6. 除雪の際、障害となる車両は移動させるが、その場合に損傷が生じても大学はその責任を負わない。また、車両の除去のために費用が必要となる場合の費用は、当該車両を所有する者の負担とする。

以 上

相次いで

◆ ◇ 学術講演会が開催される ◇ ◆

理学部学術講演会

富山大学国際交流基金により、シカゴ大学化学教室（宇宙物理学教室併任）岡 武史教授を去る9月9日から13日まで本学に招へいし、学術的な論議・講演並びに研究指導をしていただきました。

同教授は、東京大学大学院博士課程を修了された後、約30年間海外で活躍されているレーザー分光学・電波分光学の世界的リーダーの一人です。

講演会は、去る9月10日（月）に理学部2号館第10講義室において「分子イオンのレーザー分光・実験室及び木星イオン層のプラズマ」と題して行われ、学内の教官、学生の他学外からの参加者を含め約70名が出席しました。

同教授は、H₃⁺イオンの赤外スペクトルをレーザー分光で観測することに成功して分子イオン研究の新分野を開拓されましたが、講演の内容はH₃⁺イオン研究の動機、分光装置の組み立てから始まり成功に至るまで数年間の経緯、この分子が観測された後での宇宙空間での探索、それが木星のイオン層に見いだされるまでの顛末、これらの仕事の意義や今後の見通しについてでした。

講演は日本語でなされ、ユーモアある親しみやすい語り口で展開された科学の最前線に多くの者が引きずり込まれ、深い感動を与えられました。講演後は、その余韻を惜しむかのように活発な質疑応答がなされました。

(理学部)

人文学部学術講演会

去る11月1日（木）人文学部122番教室において「死の意識と物語」と題して、中央大学文学部教授丸山 圭三郎先生による学術講演会が開催されました。

先生は、東京大学大学院文学研究科修士課程を修了後、コーネル大学大学院博士課程に進まれ、ソーシャル言語学を中心に研究、今日では文化論、人間論、生命論と多彩な思想を形成、言語哲学分野の第一人者として活躍されています。

講演では、人間の歴史のなかで〈死の意識〉がどのように捉えられているかについて語られました。

古今東西〈死〉が最大の関心事の一つとなっていた奇妙な動物、人間とは何か。わたしたちが持つ死の不安には、犬や猫と共有する本能的恐怖以上のものが含まれている。〈ホモ・モルタリス〉とは、言葉によって世界を文飾し意味づける〈ホモ・ロクエンス〉のもう一つの呼び名である。

〈死の意識〉の歴史を、死の心性史という。例えばPh・アリエスの諸著作は、ネアンデルタール人の昔から「死者を埋葬する唯一の動物」人間の歴史的文化を明らかにしている。そして、人々は多くの〈死の物語〉を書いてきた。そのうちの〈科学という物語〉だけに特権を与えてはならない。物質文明がその極みに達した現代においてこそ、「〈人生の愛〉とは生活の享受を意味するのではなく、死を包みこむ生を愛することである。人間は死への自覚をもって自らを不死たらしめる」といったハイデガーたちの〈哲学という物語〉の意味を問い返すべきであろうという。

以上のように、われわれ人間にとって根源的な問題について、格調高い語り口でおよそ2時間にわたって講演され、聴衆に深い感銘を与え、盛会裡に終わりました。

(人文学部)

理学部学術講演会

去る11月8日(木)、理学部2号館第10講義室で京都大学薬学部教授 町田 勝之輔先生による講演会が『分子内ポテンシャルと赤外・ラマンスペクトル』の題目で開催されました。

講演は、分子の構造を原子-原子のポテンシャルから検討する“molecular mechanics”と呼ばれる分野に関するもので、約80名の教官・学生の方々が出席しました。

講演では、この分野への振動スペクトルの応用を、最近の鎖状分子での研究成果を例にして紹介されました。特に、先生が独自に考案された“双極子-双極子などの相互作用を導入したポテンシャル”を用いると赤外・ラマンスペクトルの強度がうまく説明できることを示され、出席者一同大きな感銘を受けました。

(理学部)



▲ 21世紀の新素材「超伝導」について講演する名古屋大学工学部前川教授

教養部学術講演会

21世紀の新素材としてその地位が約束されている材料の一つが酸化物高温超伝導体でしょう。超伝導体現象は、古典力学では説明できず量子力学を必要とし、その理解は必ずしも容易ではありません。

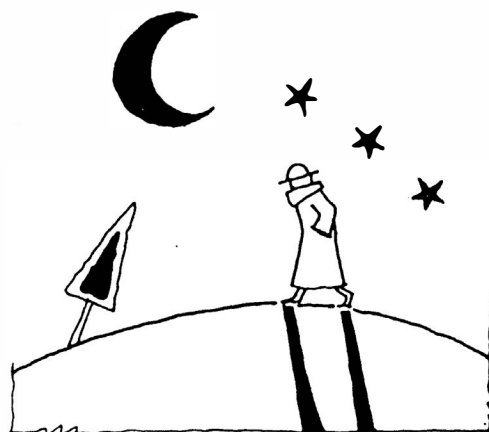
名古屋大学工学部応用物理学科教授の前川禎通理学博士は物性理論を専門とし、酸化物高温超伝導の発現機構解明の研究に精力的に取り組んでおられます。

同教授に、教養部の理工系学生を対象に「超伝導入門」という演題で特に依頼して、平成2年11月20日(火)教養部2番教室で講演会が開催されました。

講演は、まだ研究段階ではあるが、将来超伝導が利用される分野——例えば、磁気浮上列車等——の紹介に始まって、実際に社会に超伝導が利用され役立っている医療器機——核磁気共鳴断層装置、MRI——に至って、学生達に超伝導利用の素晴らしさを認識させました。その後、超伝導発現のメカニズムについて量子力学をかみくだいて判り易く講演され、学生達に感銘を与えました。

講演終了後も、教養部物理学教室で休んでおられる同教授に、学生達が押しかけ活発な質疑応答が行われ有意義な講演会となりました。

(教養部)



人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	2. 9. 3	大嶋 主悦		技術補佐員（経理部主計課）
	”	久保 哲		”（ ” ）
	”	浅野 一夫		”（ ” ）
	”	津田 明彦		”（ ” ）
	”	伊藤 克江		事務補佐員（附属図書館）
	”	太田 茂徳		”（ ” ）
	”	林 敏和		”（ ” ）
	”	2. 10. 1	吉田 俊則	
昇 任	”	水谷 秀樹		講 師（ ” ）
	2. 10. 1	松川 滋	助教授（筑波大学社会工学系）	教 授（経済学部）
	”	坂井 純一	”（工学部）	”（工学部）
	”	島山 豊正	”（ ” ）	”（ ” ）
	”	海老原直邦	”（教養部）	”（教養部）
	”	諸橋 昭一	助 手（工学部）	助教授（工学部）
	”	大川 信行	講 師（教養部）	”（教養部）
休職更新	”	飯野 正幸	助 手（経済学部）	講 師（経済学部）
	2. 9. 13	大杉 登	文部事務官（教養部）	休職の期間を平成3年3月12日まで更新する
併 任	2. 9. 30	吉原 節夫	教 授（経済学部）	経済学部長・評議員（～4. 9. 29）
採 用	2. 10. 16	加藤久美子		文部事務官（庶務部人事課）
	2. 11. 1	松田 信和		”（経理部主計課）
昇 任	2. 11. 1	長谷川 隆	講 師（経済学部）	助教授（経済学部）
退 職	2. 11. 1	浦山キクイ	臨時用務員（教育学部作業員）	平成2年10月31日限り退職した
併 任	2. 10. 16	加藤久美子	文部事務官（庶務部人事課）	北陸先端科学技術大学院大学総務課庶務係（～3. 3. 31）
昇 任	2. 12. 1	松本 修一	文部事務官（庶務部庶務課）	庶務部庶務課学事調査係法規主任
	”	朝野 真	”（庶務部人事課）	庶務部人事課給与係給与主任
	”	佐藤 淳	”（経済学部）	経済学部の会計係用度主任
転 任	2. 12. 1	佐々木和男	助教授（富山医科薬科大学実験実習機器センター）	助教授（工学部）
退 職	2. 12. 1	浦山 清忠	臨時用務員（教育学部作業員）	平成2年11月30日限り退職した
職務命令	2. 12. 1	松本 修一	文部事務官（庶務部庶務課）	庶務部庶務課学事調査係法規主任を免ずる
	”	朝野 真	”（庶務部人事課）	庶務部人事課給与係給与主任を免ずる
	”	佐藤 淳	”（経済学部）	経済学部の会計係用度主任を免ずる

学 事

平成3年度

富山大学学生募集要項の発表

本学は、平成3年度富山大学学生募集要項を去る11月14日(木)に発表しました。その概要は次のとおりです。

1. 募 集 人 員

学部	学科・課程(専攻教科)・コース	募集人員 (入学定員)	備 考	
人文学部	人 文 学 科	95	推薦入学(10名程度)及び帰国子女・社会人特別選抜(若干名)を含む。	
	語 学 文 学 科	95		
	計	190		
教育学部	小学校教員養成課程	100		
	中学校教員養成課程	50		
	〔国語、社会、数学、理科、 音楽、美術、保健体育、 家庭、技術、英語〕			
	養護学校教員養成課程	20		
	幼稚園教員養成課程	30		
	情報教育課程	40		
	〔教育情報コース、 環境情報コース〕			
計	240			
経済学部 (注1)	昼間主 コース	経済学科 (注2)	144	推薦入学(30名以内)及び帰国子女特別選抜(若干名)を含む。
		経営学科	124	
		経営法学科	102	
	夜間主 コース	経済学科	20	推薦入学(20名程度)及び社会人特別選抜(20名程度)を含む。
		経営学科	20	
		経営法学科	20	
計	430			
理学部	数 学 科	(注2) 43	推薦入学(6名以内)及び帰国子女特別選抜(若干名)を含む。	
	物 理 学 科	47	定員一部留保第2次募集(12名)及び帰国子女特別選抜(若干名)を含む。	
	化 学 科	43	帰国子女特別選抜(若干名)を含む。	
	生 物 学 科	35	帰国子女・社会人特別選抜(若干名)を含む。	
	地 球 科 学 科	32	定員一部留保第2次募集(5名)及び帰国子女特別選抜(若干名)を含む。	
	計	200		
工学部	電子情報工学科	132	推薦入学(19名以内)を含む。	
	機械システム工学科	101	推薦入学(15名以内)を含む。	
	物質工学科	83	推薦入学(12名以内)を含む。	
	化学生物工学科	86	推薦入学(12名以内)を含む。	
	計	402		
総 計		1,462		

(注) 1 経済学部の「昼間主コース」とは、主として昼間の授業を履修するコースであり、「夜間主コース」とは、主として夜間の授業を履修するコースであるが、修業年限はともに4年である。

2 募集人員の増員について

本学は上記募集人員について増員(経済学部経済学科「昼間主コース」15名、理学部数学科10名)を計画している。

平成3年度予算の関係で現在は未定であるが、この詳細は政府予算案の決定後(平成3年1月頃)発表する予定であるので注意すること。

2. 出 願 期 間

平成3年1月22日(火)から1月31日まで。(期間内必着)

受付は午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日の午後及び日曜日は受け付けない。

なお、郵送の場合、1月29日(火)以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、出願期間後に到着しても受理する。

3. 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、本学の個別学力検査等、調査書及び健康診断を総合して行う。

ただし、経済学部「夜間主コース」入学者の一般選抜は、大学入試センター試験、調査書及び健康診断を総合して行う。

(1) 2段階選抜について

ア 2段階選抜は、原則として行わない方針である。

しかし、志願者数が定員の8倍を超えた学部(経済学部「夜間主コース」を除く。)においては、大学入試センター試験の成績に基づき行うことがある。

イ 2段階選抜を実施する場合は、次の要領で行う。

(ア) 第1段階選抜の方法

大学入試センター試験の成績に基づき選抜する。

(イ) 第1段階選抜結果の通知

平成3年2月9日(土)正午、本学学生部前に「実施する学部名」を掲示する。

第1段階の選抜の結果については、合格者には「富山大学受験票」及び検査場案内等を、また不合格者にはその通知書及び検定料の返還申出書を同日付けで送付する。

ウ 2段階選抜を実施しない場合は、平成3年2月9日(土)正午、本学学生部前に「実施しない」ことを掲示するとともに、同日付けで志願者全員に「富山大学受験票」及び検査場案内等を送付する。

(注) 1. 2段階選抜の実施の有無については、テレホンサービスでも行う。(18ページ参照)

2. 受験票等が到着しない場合は、2月末日までに学生部入学主幹付入学試験係に申し出ること。

(2) 本学入試センター試験の教科・科目

本学において受験を要する教科・科目は、次のとおりである。

区 分		受 験 を 要 す る 教 科 ・ 科 目 名	
人 文 学 部		5教科5科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕 (注1) 数〔数I〕 理〔物、地学、化、理I、生から1〕 (注3) 外〔英、独、仏から1〕	
		5教科6科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕 (注1) 数〔「数I」と「数II、工、簿から1」〕 (注2) 理〔物、地学、化、理I、生から1〕 (注3) 外〔英、独、仏から1〕	
理 学 部	数 学 科 生 物 学 科 地 球 科 学 科	4教科5科目 国 数〔「数I」と「数II」〕 理〔物、地学、化、生から1〕 外〔英、独、仏から1〕	
	物 理 学 科 化 学 科	5教科6科目 国 社〔倫、日、世、地理、現社から1〕 (注1) 数〔「数I」と「数II」〕 理〔物、地学、化、生から1〕 外〔英、独、仏から1〕	

工 学 部	4教科5科目 国 数〔「数Ⅰ」と「数Ⅱ、工、簿から1」〕 (注2) 理〔物、地学、化、理Ⅰ、生から1〕 (注3) 外〔英、独、仏から1〕
-------	--

- (注) 1. 「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者に限る。
 2. 「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を選択解答できる者は、高等学校において「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限る。
 3. 「理科Ⅰ」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者に限る。
 4. 「理科」について、複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。
 5. 指定された教科・科目を受験していない場合は、「失格」とする。

(3) 個別学力検査等

本学が実施する個別学力検査の検査教科・科目等は次のとおりとし、高等学校卒業の学力程度を標準として出題する。

学 部	学科・課程（専攻教科）		検 査 教 科 ・ 科 目		
			教科等	科 目	
人文学科	人文学科 国語学文		国語 外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 英語Ⅱ・英語ⅡB、ドイツ語、朝鮮語、中国語、ロシア語のうちから英語は2科目、その他は1科目選択	
教育学部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程		国語 数学 外国語 芸術 保健体育	国語Ⅰ・国語Ⅱ 代数・幾何、基礎解析 } 1教科選択 英語Ⅱ・英語ⅡB 音楽実技 } 美術実技 } 1教科選択 体育実技	
	中学校教員養成課程	（国語、社会、英語）		国語 外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 英語Ⅱ・英語ⅡB } 1教科選択
		（数学、理科、技術）		数学 外国語	代数・幾何、基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB } 1教科選択
		（音楽）		芸術	音楽実技
		（美術）		芸術	美術実技
		（保健体育）		保健体育	体育実技
	（家庭）		国語 数学	国語Ⅰ・国語Ⅱ 代数・幾何、基礎解析 } 1教科選択 英語Ⅱ・英語ⅡB	
情報教育課程		外国語	英語Ⅱ・英語ⅡB		
経済学部 （注1）	昼コ 問1 主ス	経済学科 経営学科 経営法学科	数学 外国語	代数・幾何、基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 2科目 } 1教科選択 又はドイツ語1科目選択	
理学部	数 学 科 （注2）		数 学	代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計（統計は除く。）	
	物 理 学 科		数 理 学 科	代数・幾何、基礎解析 物理	
	化 学 科		数 理 学 科	代数・幾何、基礎解析 化学	
	生 物 学 科		理 科	物理、化学、生物、地学のうちから1科目選択 小論文〔自然科学を学ぶのに必要な論理的な思考能力並びに表現力などを問う。（高度な知識そのものを問うものではない。）〕	
	地 球 科 学 科		数 学 外 国 語 理 科	代数・幾何、基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB } 1教科選択 物理、化学、生物、地学のうちから1科目選択	
工学部	電子情報工学科 機械システム工学科		数 学 理 科	代数・幾何、基礎解析 物理	
	物質工学科 化学生物工学科		数 学 理 科	代数・幾何、基礎解析 物理、化学のうちから1科目選択	

(注) 1. 経済学部「夜間主コース」は、個別学力検査は課さない。

2. 理学部数学科は、「数学」を2時限にわたって課す。第1時限〔代数・幾何, 基礎解析〕10:00～11:30, 第2時限〔代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計(統計は除く。)] 13:00～14:30。

(4) 実技検査(筆答試問を含む。)

ア 教育学部小学校教員養成課程, 養護学校教員養成課程, 幼稚園教員養成課程

区 分	検 査 内 容
音 楽 実 技	1 歌唱又は楽器による自由曲演奏 歌唱は音楽Ⅰ程度までの歌曲 楽器は和楽器を除き、管、弦、鍵盤楽器いずれも可 2 筆記及び録音聴取による音楽Ⅰ程度の音楽能力検査 (注) (1) 自由曲演奏の歌唱又は楽器の選択は、入学志願票の「歌唱」又は「楽器」のいずれかを○で囲み、楽器の場合は、楽器名も記入する。なお、自由曲は無伴奏で演奏する。楽譜は見てもよい。 (2) ピアノ、電子オルガン、マリンバ以外の楽器は各自持参すること。 なお、電子オルガン演奏では大学で設定した音色等を使用することとし、その詳細は出願後受験者に送付する。 (3) 筆記用具を持参すること。
美 術 実 技	平面(鉛筆と水彩絵具による。) 表現力検査 (用具、材料は本学で準備する。) 立体(粘土による。)
体 育 実 技	基礎運動能力検査 (注) 運動のできる服装と屋内用運動靴を準備すること。

イ 教育学部中学校教員養成課程(音楽, 美術, 保健体育)

区 分	検 査 内 容	
	実 技 検 査	筆 答 試 問
音 楽 実 技	声 楽 1 コンコーネ50番のNa15～Na30より一曲を当日指定する。(母音唱) 2 下記の歌曲より任意の一曲を暗譜演奏する。 Vergin, tutto amor (c moll) F. Durante Sebben, crudele (d moll) A. Caldara O del mio dolce ardor (e moll) C. W. Gluck ふるさとの (F dur) 平井康三郎 北秋の (D dur) 信時 潔 かやの木山 (D dur) 山田 耕祐 (指定の調以外で歌う者は、伴奏譜を出願書類とともに提出すること。) 器 楽(ピアノ) 1 バッハのインヴェンション、シンフォニアより任意の一曲を暗譜演奏する。 2 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタより任意の一曲の第1楽章または終楽章を暗譜演奏する。ただし、変奏曲及び緩徐楽章を除く。 ソルフェージュ 1 コールユーブンゲン第一巻(原書) Na48～Na85の中より当日指定する。 2 聴音 簡易な単旋律と四声体和声の聴取	音楽通論
美 術 実 技	絵 画(人物写生) デザイン(立体構成) (用具、材料は本学で準備する。)	試問しない
体 育 実 技	1 基礎運動能力 2 運動技能 (1) 器械運動 鉄棒運動(男)、平均台運動(女)、マット運動 (2) 陸上競技 スタートダッシュ、立三段跳、三步助走の走高跳 (3) 球 技 バレーボール、バスケットボール、サッカー (4) ダ ンス 主題による創作 上記2(1)～(4)の四領域のうちより、二領域を選び、その領域より一種目づつの運動を選ぶ。	試問しない

(5) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の配点

教科等		区 分	国 語	社 会	数 学	理 科	外 国 語	実 技 検 査	小論文	小 計	合 計
学部(学科・課程)											
人 文 学 部		センター試験 個別学力検査	100 200	100	100	100	100 200			500 400	900
教 育 学 部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	センター試験 個別学力検査	200 (200)	100	200 (200)	100	200 (200)	200		800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (国語、社会、英語) 専攻	センター試験 個別学力検査	200 (400)	100	200	100	200 (400)			800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (数学、理科、技術) 専攻	センター試験 個別学力検査	200	100	200 (400)	100	200 (400)			800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (音楽、美術、 保健体育専攻)	センター試験 個別学力検査	200	100	200	100	200	400		800 400	1,200
	中学校教員養成課程 (家庭専攻) 情報教育課程	センター試験 個別学力検査	200 (400)	100	200 (400)	100	200 (400)			800 400	1,200
	経済学部 昼コ ース 主ス	経済学科 経営学科 経営法学科	センター試験 個別学力検査	100	50	100 (300)	50	100 (300)			400 300
経済学部 夜コ ース 主ス	経済学科 経営学科 経営法学科	センター試験	200	100	200	100	200			800	800
理 学 部	数 学 科	センター試験 個別学力検査	100		100 500	100	200			500 500	1,000
	物 理 学 科	センター試験 個別学力検査	200	100	200 200	100 400	200			800 600	1,400
	化 学 科	センター試験 個別学力検査	200	100	200 200	100 200	200			800 400	1,200
	生 物 学 科	センター試験 個別学力検査	200		200	100 400	200		400	700 800	1,500
	地 球 学 科	センター試験 個別学力検査	100		200 (200)	100 200	200 (200)			600 400	1,000
工 学 部		センター試験 個別学力検査	100		100 200	100 200	100			400 400	800

(注) 1. 配点の () は選択教科を示す。

2. 理学部数学科の個別学力検査「数学」の配点は、「代数・幾何、基礎解析」200点と「代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計(統計は除く。)」300点とで合計500点である。

(6) 健康診断

健康診断の判定は、次のとおり行う。

人文学部・教育学部・経済学部

疾病あるいは障害を理由とする不合格の判定は行わない。

理 学 部

入学後の保健指導等を考慮してもなお修学に耐えがたいと認められる疾病及び身体的機能障害の者は、入学を許可しないことがある。

色覚異常は合格判定の資料とはしないが、化学科では学習上支障をきたす場合がある。

工 学 部

入学後の保健指導等を考慮してもなお修学に耐えがたいと認められる疾病及び身体的機能障害の者は、入学を許可しないことがある。

色覚異常は合格判定の資料とはしないが、学習上支障をきたす場合があるので留意すること。

4. 検査期日

平成3年3月3日(日)

(教育学部小学校教員養成課程、養護学校教員養成課程及び幼稚園教員養成課程は、3月3日(日)、4日(月)の両日行う。)

5. 検査場

学力検査及び健康診断(再診断)は、学部ごとに次の検査場(予定)で行う。ただし、志願者数によっては検査場の変更(富山市内公立高等学校等)もあり得るが、検査場案内は、受験票等送付(2月9日)の際に通知する。

人文学部検査場

人文学部及び教養部(富山市五福)

……………(学力検査 健康診断)

教育学部検査場

教育学部(富山市五福)

……………(学力検査
実技検査 健康診断)

経済学部検査場

経済学部及び教養部(富山市五福)

……………(学力検査 健康診断)

理学部検査場

理学部(富山市五福)

……………(学力検査 健康診断)

工学部検査場

工学部(富山市五福)

……………(学力検査 健康診断)

★ 受験上の注意事項

ア 試験当日は、大学入試センター試験受験票及び

本学受験票を必ず持参すること。特に大学入試センター試験受験票は、入学手続きの際にも必要であるので紛失しないこと。

イ 学力検査、実技検査、小論文及び健康診断を受けるときは、必ず「受験票」を携帯すること。

ウ 学力検査、実技検査、小論文及び健康診断の一部でも受けない者は、選抜の対象から除く。

エ 受験票に記載の「受験心得」を厳守すること。

6. 合格者発表

合格者は、受験番号を平成3年3月20日(水)午後1時本学特設掲示場(学生部前)に掲示し、かつ、本人に通知する。電話その他による問い合わせには一切応じない。

7. 情報の提供(テレホンサービス)

本学では、個別学力検査等の出願状況及び欠員補充の方法等について、次のとおりテレホンサービスを行う。(本学への直接の問い合わせには応じない。)

ア 出願状況

平成3年1月23日(木)～平成3年2月2日(土)

イ 2段階選抜実施の有無

平成3年2月9日(土)午後0時30分～平成3年2月12日(火)

ウ 欠員補充方法

平成3年3月21日(木)～平成3年3月27日(水)

エ 欠員補充状況

平成3年3月28日(木)～平成3年3月31日(日)

電話番号 0764(33)2999(通話料は有料)

平成2年度科学研究費補助金追加交付内定者

研究種目	研究代表者			研究課題	配分予定額(千円)		
	所属	職	氏名		平成2年度	平成3年度	平成4年度
一般研究(B)	水素同位体機能研究センター	助教授	松山政夫	広範囲トリチウム圧の非破壊測定に対する制動X線計測法の適用性	4,600	1,400	0
一般研究(C)	理学部	"	菅谷 孝	環の拡大の理論	1,500	0	0
"	工学部	"	穴田 博	アルミニウム-ステンレスネット複合パイプの製造とその特性	700	0	0
奨励研究(A)	工学部	講師	宮本真敏	ワンショットブロック共重合-モノマーの同時仕込みによる一段階共重合法の開発	800	0	0

分離・分割方式を主体とする

平成4年度入学試験の定員割り振り 及び実施教科・科目等を公表

—— 入学者選抜方法の工夫・改善が図られる ——

分離・分割方式を主体に実施することが決定している本学の平成4年度入学試験の実施方式・日程については、9月号の学報に掲載しましたが、去る10月19日(金)開催の平成2年度第7回評議会において、個別学力検査の実施教科・科目等の詳細が決定され、同日公表されました。

公表された各学部の実施方式、定員割り振り及び実施教科・科目等は、次のとおりです。

なお、大学入試センター試験及び個別学力検査の配点並びに推薦入学等の特別選抜の実施については、来年7月末日までに公表する「入学者選抜に関する要項」に発表される予定です。

平成4年度富山大学入学者選抜個別学力検査等について

学部	学科(課程等)	入学定員	実施方式	募 集 人 員				個別学力検査の実施教科・科目 (実技,面接,小論文を含む。)等について												
				連 続 方 式		分 離 ・ 分 割 方 式														
				A日程	B日程	前 期	後 期													
人 文 学 部	人 文 学 科	95	分離分割	—	—	70	25	実施教科・科目 ①前期日程 <table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全学科</td> <td>国,社,数(数I),理 外 5教科5科目</td> <td>国(国I,国II),外(「英II・ 英II B,1独,朝,中,露から1」) 2教科</td> </tr> </table> ②後期日程 <table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全学科</td> <td>国,社,数(数I),理 外 5教科5科目</td> <td>課さない</td> </tr> </table>	学科	センター試験	個別学力検査等	全学科	国,社,数(数I),理 外 5教科5科目	国(国I,国II),外(「英II・ 英II B,1独,朝,中,露から1」) 2教科	学科	センター試験	個別学力検査等	全学科	国,社,数(数I),理 外 5教科5科目	課さない
	学科	センター試験		個別学力検査等																
全学科	国,社,数(数I),理 外 5教科5科目	国(国I,国II),外(「英II・ 英II B,1独,朝,中,露から1」) 2教科																		
学科	センター試験	個別学力検査等																		
全学科	国,社,数(数I),理 外 5教科5科目	課さない																		
	語 学 文 学 科	95		—	—	70	25													
	小 計	190		—	—	140	50													

教 育 学 部	中学校教員養成 課程 (国語,社会,数学, 理科,家庭,技術, 英語)		50	連続 (A日程)	50	—	—	—	<table border="1"> <tr> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目</td> <td>国(国I,国II),数(代・幾,基解),外 (英II・英II B)から1教科</td> </tr> </table>	センター試験	個別学力検査等	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	国(国I,国II),数(代・幾,基解),外 (英II・英II B)から1教科										
	センター試験	個別学力検査等																					
	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	国(国I,国II),数(代・幾,基解),外 (英II・英II B)から1教科																					
	中学校教員養成 課程 (音楽,美術, 保健体育)								<table border="1"> <tr> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目</td> <td>志望専攻の実技</td> </tr> </table>	センター試験	個別学力検査等	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	志望専攻の実技										
	センター試験	個別学力検査等																					
国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	志望専攻の実技																						
小学校教員養成 課程		100	分離分割	—	—	70	30	実施教科・科目 ①前期日程 <table border="1"> <tr> <th>課程</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全課程</td> <td>国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目</td> <td>国(国I,国II),数(代・幾,基解), 外(英II・英II B)から1教科</td> </tr> </table> ②後期日程 <table border="1"> <tr> <th>課程</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>小,養,幼</td> <td>国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外</td> <td>実技(音,美,体から1科目)</td> </tr> <tr> <td>情報</td> <td>5教科6科目</td> <td>課さない</td> </tr> </table>	課程	センター試験	個別学力検査等	全課程	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	国(国I,国II),数(代・幾,基解), 外(英II・英II B)から1教科	課程	センター試験	個別学力検査等	小,養,幼	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外	実技(音,美,体から1科目)	情報	5教科6科目	課さない
課程	センター試験	個別学力検査等																					
全課程	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	国(国I,国II),数(代・幾,基解), 外(英II・英II B)から1教科																					
課程	センター試験	個別学力検査等																					
小,養,幼	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外	実技(音,美,体から1科目)																					
情報	5教科6科目	課さない																					
養護学校教員養成 課程		20				14	6																
幼稚園教員養成 課程		30				21	9																
情報教育課程		40				30	10																
小 計		240		50	—	135	55																
経 済 学 部	昼コ	経済学科	144	分離分割	—	—	105	39	実施教科・科目 ①前期日程 <table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全学科</td> <td>国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目</td> <td>数(代・幾,基解)又は(「英II・ 英II B」,独から1科目)から1 教科</td> </tr> </table> ②後期日程 <table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全学科</td> <td>国,社,外 3教科3科目</td> <td>課さない</td> </tr> </table>	学科	センター試験	個別学力検査等	全学科	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	数(代・幾,基解)又は(「英II・ 英II B」,独から1科目)から1 教科	学科	センター試験	個別学力検査等	全学科	国,社,外 3教科3科目	課さない		
	学科	センター試験	個別学力検査等																				
	全学科	国,社,数(数Iと他の 1科目),理,外 5教科6科目	数(代・幾,基解)又は(「英II・ 英II B」,独から1科目)から1 教科																				
	学科	センター試験	個別学力検査等																				
	全学科	国,社,外 3教科3科目	課さない																				
問1	経営学科	124				91	33																
主ス	経営法学科	102				74	28																
計		370		—	—	270	100																
夜コ	経済学科	20	連続 (B日程)	—	20	—	—	—															
問1	経営学科	20																					
主ス	経営法学科	20																					
計		60		—	60	—	—																
小 計		430		—	60	270	100																

		数 学 科	43			33	10	実施教科・科目 ①前期日程																		
理 学 部		物 理 学 科	47			35	12		<table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>数 学</td> <td>国、数(数I、数II)、理 (理Iを除く。)、外</td> <td>数(代・幾、基解、微・積、確・統 …統計は除く。)1教科</td> </tr> <tr> <td>生 物</td> <td>(理Iを除く。)、外</td> <td>理(物、化、生、地から1)、小論文 1教科と小論文</td> </tr> <tr> <td>地球科学</td> <td>4教科5科目</td> <td>数(代・幾、基解)又は外(英II・英II B)、理(物、化、生、地から1)2教科</td> </tr> <tr> <td>物 理</td> <td>国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外</td> <td>数(代・幾、基解)、理(物) 2教科</td> </tr> <tr> <td>化 学</td> <td>5教科6科目</td> <td>数(代・幾、基解)、理(化) 2教科</td> </tr> </table>	学科	センター試験	個別学力検査等	数 学	国、数(数I、数II)、理 (理Iを除く。)、外	数(代・幾、基解、微・積、確・統 …統計は除く。)1教科	生 物	(理Iを除く。)、外	理(物、化、生、地から1)、小論文 1教科と小論文	地球科学	4教科5科目	数(代・幾、基解)又は外(英II・英II B)、理(物、化、生、地から1)2教科	物 理	国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外	数(代・幾、基解)、理(物) 2教科	化 学	5教科6科目
	学科	センター試験	個別学力検査等																							
	数 学	国、数(数I、数II)、理 (理Iを除く。)、外	数(代・幾、基解、微・積、確・統 …統計は除く。)1教科																							
	生 物	(理Iを除く。)、外	理(物、化、生、地から1)、小論文 1教科と小論文																							
	地球科学	4教科5科目	数(代・幾、基解)又は外(英II・英II B)、理(物、化、生、地から1)2教科																							
物 理	国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外	数(代・幾、基解)、理(物) 2教科																								
化 学	5教科6科目	数(代・幾、基解)、理(化) 2教科																								
	化 学 科	43	分離分割	—	—	30	13	②後期日程																		
	生 物 学 科	35				20	15	<table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>数 学</td> <td>国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外 5教科6科目</td> <td rowspan="5">課さない</td> </tr> <tr> <td>物 理</td> <td>国、社、数(数I、数II)、 理(物)、外 5教科6科目</td> </tr> <tr> <td>生 物</td> <td>国、数(数I、数II)、理 (物又は化)、外 4教科5科目</td> </tr> <tr> <td>地球科学</td> <td>国、数(数I、数II)、理 (地学)、外 4教科5科目</td> </tr> <tr> <td>化 学</td> <td>数(数I、数II)、理(理 Iを除く。)、外 3教科4科目</td> <td>小論文(化学に関するもの)</td> </tr> </table>	学科	センター試験	個別学力検査等	数 学	国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外 5教科6科目	課さない	物 理	国、社、数(数I、数II)、 理(物)、外 5教科6科目	生 物	国、数(数I、数II)、理 (物又は化)、外 4教科5科目	地球科学	国、数(数I、数II)、理 (地学)、外 4教科5科目	化 学	数(数I、数II)、理(理 Iを除く。)、外 3教科4科目	小論文(化学に関するもの)			
学科	センター試験	個別学力検査等																								
数 学	国、社、数(数I、数II)、 理(理Iを除く。)、外 5教科6科目	課さない																								
物 理	国、社、数(数I、数II)、 理(物)、外 5教科6科目																									
生 物	国、数(数I、数II)、理 (物又は化)、外 4教科5科目																									
地球科学	国、数(数I、数II)、理 (地学)、外 4教科5科目																									
化 学	数(数I、数II)、理(理 Iを除く。)、外 3教科4科目		小論文(化学に関するもの)																							
	地 球 学 科	32				27	5																			
	小 計	200		—	—	145	55																			
工 学 部		電子情報工学科	132			92	40	実施教科・科目 ①前期日程																		
		機械システム 工 学 科	101	分離分割	—	—	71		30																	
		物質工学科	83				58	25	②後期日程																	
		化学生物工学科	86				60	26																		
		小 計	402		—	—	281	121	<table border="1"> <tr> <th>学科</th> <th>センター試験</th> <th>個別学力検査等</th> </tr> <tr> <td>全学科</td> <td>国、数(数Iと他の1科 目)、理、外 4教科5科目</td> <td>課さない</td> </tr> </table>	学科	センター試験	個別学力検査等	全学科	国、数(数Iと他の1科 目)、理、外 4教科5科目	課さない											
学科	センター試験	個別学力検査等																								
全学科	国、数(数Iと他の1科 目)、理、外 4教科5科目	課さない																								
	合 計	1462		50	60	971	381																			

(注)大学入試センター試験について

1. 選択科目について特に指定のない限り、社会は「倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」、「現代社会」から1科目を選択、理科は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「理科I」から1科目を選択、外国語は「英語I・英語II」、「ドイツ語」、「フランス語」から1科目の選択を示す。

なお、数学の「他の1科目」とは、「数学II」、「工業数理」、「簿記会計I・簿記会計II」からの選択を示す。

2. 「現代社会」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者に限る。
3. 「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を選択解答できる者は、高等学校において「工業数理」又は「簿記会計I・簿記会計II」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。
4. 「理科I」を選択解答できる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者に限る。
5. 「理科」について、複数科目を受験している場合は高得点の科目を利用する。

学内トピックス

紅葉の立山で留学生との交流を図る

—— 外国人留学生との懇談会 ——

本学における外国人留学生の数は年々増加の傾向にあり、それとともに担当教職員の対応も、忙しさとあいまってとかく表面的になりがちな昨今です。そんな中、去る10月1日(月)、2日(火)の両日にわたり、本学学生部主催による外国人留学生との懇談会(一泊旅行)が、紅葉に彩られた国立立山少年自然の家を拠点として実施されました。



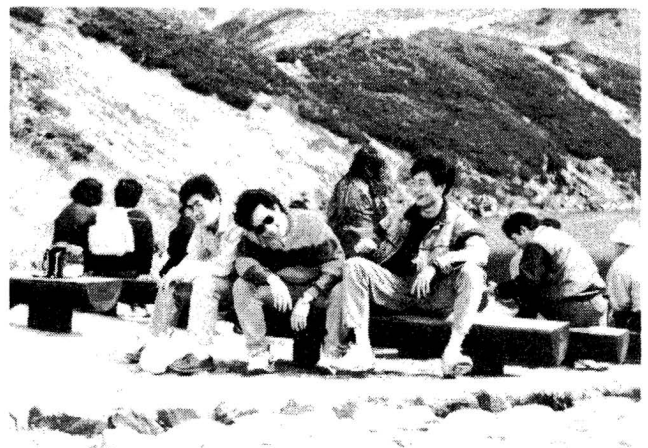
▲ 国立立山少年自然の家にて

この行事に、留学生等39名、国際交流委員会留学生部会委員である工学部塩澤教授、同教養部上野講師、保健管理センターのカウンセラーとして高尾助教授、学生部長をはじめ学生部職員7名及び各学部の留学生担当職員6名の総勢55名が参加し、ビーチバレーボールやフリーストーンキング、そして立山室堂へのバスハイキング等を通じ、「本学に在学する外国人留学生及び研究員と教職員とが宿泊して、親しく懇談することにより、一層の相互理解及び留学生間の交流を深めるとともに富山の自然に親しむ」という当初の目的が十二分に達せられました。

なお、参加した留学生の一人に感想をうかがったところ、特に二日目のバスハイキング当日は天候にも恵まれ、立山の雄大な自然とその中に生きる雷鳥の姿まで見ることもでき、とても良かったとのことでした。



▲ 立山の大自然を背に、母国を離れて暮らす淋しさも忘れた一日でした



▲この日初めて知り合った仲間も大勢います

富山大学体育会合気道部

創立20周年記念演武会を盛大に開催

——— 韓国明知大学合気道部を招へい ———

去る11月23日（金）勤労感謝の日に富山大学体育会合気道部創立20周年記念演武会が、本学黒田講堂にOBら関係者約200名の観衆を集めて盛大に行われました。



▲ 韓国演武団許団長と本学合気道部武井部長が記念品の交換を行い、国際交流の輪が広がる

合気道は、日本古来より伝わる柔術、剣術、槍術を修めさらに工夫を加えて、「円転の理」と「呼吸力」を用いた多彩な投げ技・関節技として体系化されて創られた合理的な近代武道です。また、合気道は“技”の錬磨だけでなく、精神的な錬磨をも目的としているほか、護身術として女性からも魅力的なスポーツとして人気があります。

さて、本学合気道部は、昭和45年同好会として発足して以来、多くの諸先輩の庇護のもとにより指導者を得て、部の興隆に心血が注がれ、現在、武井 勲経済学部教授を部長に部員数35名を数えて意欲的な活動を行っています。

当日は、演武会に先立ち、創部20周年を記念して、午後1時から記念式典が行われ、高田正光主将（理学部3年）の開会の挨拶に始まり、大井学長（代読）、名誉師範田中茂穂明治神宮至誠館館長並びに今回招へいされた韓国演武団団長許 一雄明知大学校教授らのお祝いの言葉が述べられた後、韓国演武団（30名）と

本学合気道部の記念品の交換があり、韓国明知大学合気道部から記念の「ペナント」を、本学合気道部からは「出世カブト」がそれぞれ贈られました。

引き続き、演武会に移り、会場を埋めたOBとその家族や関係者の見守る中、日頃鍛えた「基本技」から「太刀取り」、「二人取り」に至る計17技を披露し、盛んな拍手を浴びていました。

また、招待演武として、金沢大学、専修大学、中央大学、東京大学の妙技も披露され、続いて、韓国明知大学校生を中心とする韓国大学合気道演武団の迫真の演技には、場内から思わず吐息のもれる一幕もあり、会場は熱気に包まれました。

最後に、経済学部武井部長からこれまでの部の20年の回顧に対する謝意と今後の発展を期する旨の閉会の挨拶で散会した後、会場を移して韓国代表团との国際交流そしてOBらとの旧交も温められるなど親交が深められました。

また、今回の演武会には韓国演武団との交流もさることながら、合気道部OBとその家族の方々も多数が黒田講堂に参集され、本学の課外活動の一斑を社会に披露でき、本学の一面を紹介できたことは大変喜ばしいことであり、更に黒田講堂が大いに利用され、その機能が発揮されていくものと意を強くさせられました。



▲ 迫真の演技で観客を魅了した韓国演武団

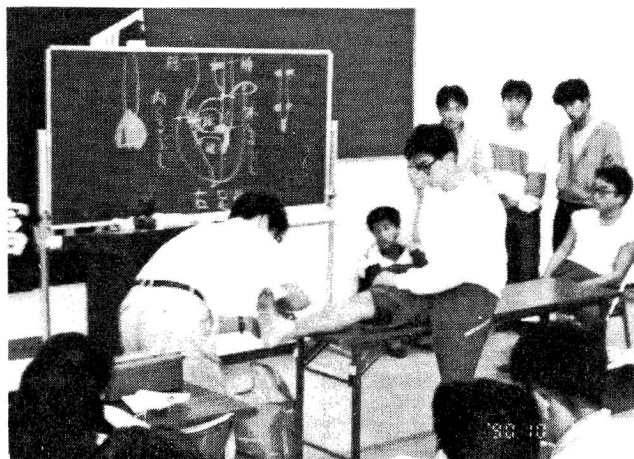
平成2年度体育系サークルリーダー研修会の実施

平成2年度体育系サークルリーダー研修会が、例年どおり財団法人富山県体育協会山野スポーツセンターにおいて、体育会役員及び体育会所属サークルリーダーから67名の参加を得て、10月1日(月)から3日(水)まで二泊三日の日程で実施されました。

今年度の分科会テーマは、一つは「クラブ活動の充実について」、もう一つは近頃大学等の課外活動における問題としてクローズアップされてきた「体育会離れの現状について」で、例年テーマを三つ設定したところを二つに絞り、それに費やす時間を長くして、各

テーマについて深く掘り下げて検討されました。

また、教養部鳥海講師の講義「体育会クラブとしてのあり方」、同布村助教授による「ストレッチとマッサージ」等の実習、社会保険高岡病院の山田均副院長による講演「応急処置について」のほか、今回は、富山女子短期大学桑守豊美教授から「スポーツマンの栄養摂取」と題するこれまでになかった内容の講義も盛り込まれ、参加学生のサークルリーダーとしての資質向上及びサークル相互の交流に寄与するところ大となりました。



▲ 分科会に、あるいは講義・実習に、真剣な面持ちで取り組む各サークルリーダー

『冬の省エネルギーに協力を!!』

石油、天然ガスなどのエネルギー資源は、地球の貴重な財産です。

資源の無駄使いは、地球の温暖化など地球環境の悪化を招く原因ともなります。

日頃からエネルギーを効率的に使用し、地球にやさしい環境作りに心掛けましょう。

寄稿 海外レポート

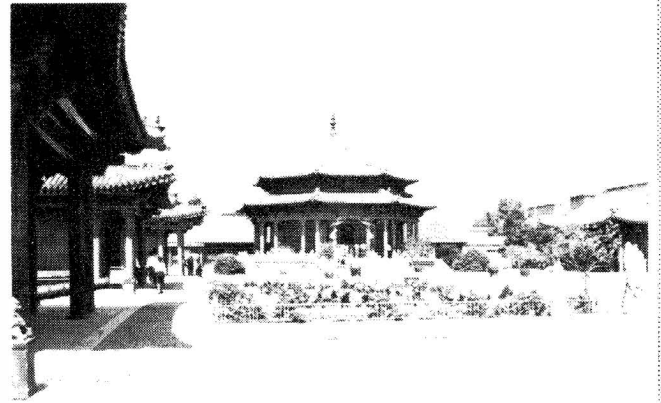
遼寧大学を訪問して

人文学部助教授 檀 上 寛

富山大学国際交流事業基金による派遣教員として、1990年8月29日から11月1日までの約二ヵ月間、富山大学と友好関係にある中国遼寧大学を訪問した。遼寧省瀋陽市にある当大学と富山大学との間に、友好学術交流協定が締結されたのが1984年。以来毎年一名ずつ教員を派遣して、今年で7人目になる。専門が中国明清史でもあり、清朝の旧都瀋陽にも興味を持っていた私は、史蹟調査と学術交流の二つの目的を持って、炎暑の大阪空港をあとにした。

日本人にはあまりなじみのない瀋陽も、旧満洲帝国時代の奉天だといえば、思い当たる人も少なくないだろう。いままでも当時の名残がいたるところにあり、かつての満鉄ビルや大和ホテルも名称をこそ変え、昔ながらのたたずまいで中山広場に面して立っている。東京駅を模して建造された赤レンガの瀋陽駅は、偽満洲国（中国ではそのように呼称される）の面影をいやがおうでも彷彿とさせる。

こを訪れた内藤湖南（日本の東洋史学の開拓者）が、『満文老档』という清朝史に関する貴重な資料を発見したことは、あまりにも有名。このほか清の太祖ヌルハチの陵墓福陵、同じく太宗ホンタイジの昭陵など、清朝ゆかりの史蹟は数多い。征服王朝である清朝と日本の傀儡政権である満洲国。この二つの帝国の痕跡をいまなおとどめる都市が、瀋陽に他ならない。



▲ 瀋陽の故宮の中心的な建物である大政殿



▲ 東京駅を模して建造された赤レンガの瀋陽駅は、旧満洲国を彷彿とさせる

瀋陽はまた満洲族清朝（1616～1911）の発祥の地であり、清朝が1644年に北京遷都をしたのちは、副都盛京として東北地方の中心地であり続けた。北京には規模で劣るものの、瀋陽にも故宮があり、明治の末にそ

現在では中国第四番目の大都市に成長した瀋陽は、また東北随一の工業都市でもある。市の中心部にある太原街は活気に溢れ、行き交う人の服装も随分華やかだ。商店には多くの品物が所狭しと積まれ、ここ数年、急激な勢いで人々を消費経済の中に巻き込んでいくことを伺わせる。しかし、その一方で性急な近代化政策は環境を破壊し、空気の汚染などが問題化しているとも聞く。瀋陽を離れて気づくのだが、その空には、常に重く厚いスモッグがたちこめている。かつて日本がたどったのと同じ道程を、今の瀋陽に見る思いがした。遼寧大学は市の北よりの文教地区にあり、15の学部と2つの学院、5つの研究所からなる総合大学である。教職員の数は約2,000人、学生数約4,500人（本科生のみ）。富大よりはるかに広いキャンパスには講義棟のほか、学生や教職員の宿舎・医院・食堂・商店・

書店等が立ち並ぶ。これは中国の大学の特徴でもあるのだが、大学自体が一つの完結した生活空間をなしているわけだ。

私を受け入れてくれたのは歴史系（系は日本の学部にはほぼ相当）で、孫文良教授が共同研究者になってくださった。氏の専門は明清史とりわけ満洲史で、この方面の研究では中国での指導的立場にある。最近、大著『満族大辞典』を出版されたので、日本の研究者もまもなくその恩恵に浴することだろう。もともと遼寧大学の歴史系では、瀋陽の地理的・歴史的条件を反映して清朝史の研究が盛んである。地域に根差した研究は中国の研究機関の特徴でもあるが、清朝史研究の最前線で活躍する多くの学者と交流できたことは、私にとって大きな幸せであった。

このほか日本に対する研究も盛んで、当大学の日本研究所は中国で最初の日本研究機関だという。機関雑誌『日本研究』を見れば、研究者の関心の所在を知ることができるが、その多くは明治以後に集中しているようだ。開国後百年足らずで近代化を達成した日本。その日本を徹底して解剖し、自国の国家建設に役立てようという中国の研究者の意気込みが伝わってくる。これは最近の日本の若手研究者の多くが、中国近代史を敬遠している現実と好対照をなす。両国の置かれている現状と課題意識の相違が研究面にも現れているわけだ。この間隙はどのようにして埋めることができるのだろうか。考えさせられる問題ではある。



▲ 遼寧大学歴史系のスタッフと記念のナップ
〔写真前列右から2人目が孫文良教授、中央が筆者〕

瀋陽滞在中には多くの方々と交流する機会を得た。なかでも私の日常生活全般の面倒をみてくださった外事処（国際交流課）のスタッフとは、公的な立場を離

れてお付き合いしていただいた。もともと中国人は外国人であろうと（あるいは外国人だからこそ）、中国文化を共有するものに対しては極めて親近感を示す。中国語が喋れるとか、中国文化に興味があるとかで、時として身内のようにあつかわれることがある。それは自国の文化に対する絶対的な自信の現われであり、中華思想の裏返しでもあるのだが、一面では日本社会にはない包容力を中国社会は持っている。たまたま中国文化の共有者であったため、本音の部分で彼らと接触できたことは、今回の訪中の大きな収穫であった。

私が瀋陽を離れた十月の末は、すでに夜間の気温は零度を下回っていた。最も寒い二月にはマイナス30度以下になることもあるという。丁度寒さを避けるかのように帰国した私は、瀋陽の厳寒の季節を知らない。彼らと生活感覚を共有するためにも、次回の訪問は冬期に行くべきだろうか。瀋陽滞在の日々がしきりに思い出される今日この頃である。

筆者は、平成2年度本学国際交流事業基金第1種海外派遣事業(A)に採択され、平成2年8月29日から平成2年11月1日までの間「瀋陽における明清時代の史跡調査及び明清研究者との意見交換」を研究テーマとして、中国瀋陽大学へ外国出張されました。



関係法令

(政令)		用に関する省令の一部を改正する省令 (文部28)	11. 1
○ 毒物及び劇物取締法施行令の一部を改正する政令 (275)	9. 21	(規則)	
○ 毒物及び劇物指定令の一部を改正する政令 (276)	9. 21	○ 人事院規則 9-80 (扶養手当) の一部を改正する人事院規則 (人事院 9-80-2)	9. 1
○ 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令 (287)	9. 28	○ 人事院規則16-0 (職員の災害補償) の一部を改正する人事院規則 (同16-0-10)	9. 29
○ 臨時行政改革推進審議会設置法の施行期日を定める政令 (314)	10. 30	○ 人事院規則16-3 (災害を受けた職員の福祉施設) の一部を改正する人事院規則 (同16-3-13)	9. 29
○ 臨時行政改革推進審議会設置法施行令 (315)	10. 30	○ 人事院規則16-4 (補償及び福祉施設の実施) の一部を改正する人事院規則 (同16-4-7)	9. 29
(省令)		○ 計算証明規則の一部を改正する規則 (会計検査院 5)	11. 1
○ 毒物及び劇物取締法施行規則の一部を改正する省令 (厚生50)	9. 21	(告示)	
○ 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令 (文部24)	10. 1	○ 平成 3 年度科学研究費補助金の計画書の提出期間を定める件 (文部103)	9. 5
○ 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令 (同25)	10. 1	○ 行政機関の保有する電子計算機処理に係る個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、行政機関が平成 2 年 9 月 20日現在で保有している個人情報ファイル及び保有をやめた個人情報ファイルを告示 (総務庁71)	10. 1
○ 教育公務員特例法施行令第 1 条の規定に基づき大学院に置かれる研究科の長を定める省令の一部を改正する省令 (同26)	10. 1		
○ 旅券法施行規則の一部を改正する省令 (外務 8)	10. 22		
○ 国立の学校における授業料その他の費			

諸 会 議

第 3 回大学院委員会 (9 月 13 日)

(審 議 事 項)

- (1) 平成 3 年度富山大学大学院人文科学研究科 (修士課程) 学生募集要項について
- (2) 平成 3 年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程) 及び工学研究科 (修士課程) 入学試験合格者

の判定について

(3) その他

大学院設置基準の改正について

第 5 回入学試験管理委員会・第 5 回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会 (9 月 18 日)

(審議事項)

- (1) 富山大学入学者選抜健康診断判定基準について
- (2) 平成3年度富山大学学生募集要項(推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜)(案)について
- (3) 平成3年度私費外国人留学生募集要項(案)について
- (4) 平成4年度入学試験の実施方式・日程等について

第6回事務協議会(9月18日)

(議題)

- (1) 当面の諸問題について

第2回体育部会(9月19日)

(議題)

- (1) 平成2年度体育系サークルリーダー研修会について
- (2) その他

第3回補導協議会(9月20日)

(審議事項)

- (1) 平成2年度体育系サークルリーダー研修会について
- (2) 平成2年度厚生補導研究会について
- (3) その他

第6回評議会(9月21日)

(審議事項)

- (1) 富山大学教養部規則の一部改正について
- (2) 平成3年度富山大学学生募集要項(推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜)について
- (3) 平成2年9月卒業者の認定について
- (4) 平成4年度入学試験の実施方式・日程等について

第1回レクリエーション委員会(10月8日)

(議題)

- (1) 平成2年度職員厚生経費の使用計画について
- (2) その他

第7回事務協議会(10月9日)

(議題)

- (1) 当面の諸問題について

第2回廃液処理施設運営委員会(10月9日)

(議題)

- (1) 運営委員長の選出について
- (2) 平成2年度運営費予算について
- (3) その他

第1回保健管理センター運営委員会(10月12日)

(審議事項)

- (1) 平成2年度保健管理センター運営費予算(案)について
- (2) 平成2年度保健管理センター業務計画(案)について
- (3) その他

第6回入学試験管理委員会・第6回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会(10月16日)

(審議事項)

- (1) 平成3年度富山大学学生募集要項(案)について
- (2) 平成4年度入学試験の実施方式等について

第7回評議会(10月19日)

(審議事項)

- (1) 平成3年度富山大学学生募集要項について
- (2) 平成4年度入学試験の実施方式等について
- (3) 平成2年9月卒業者の認定について
- (4) 転学部について

第3回学園ニュース編集委員会(10月18日)

(審議事項)

- (1) 第70号学園ニュースの編集について
- (2) 第71号学園ニュースの発行について

第5回学寮補導委員会(10月19日)

(審議事項)

- (1) 風呂用温水ボイラー燃料費について
- (2) その他

第2回富山県留学生等交流推進会議運営委員会(10月22日)

(議題)

- (1) 富山県内在住の外国人留学生の支援方策等について
- (2) その他

第4回補導協議会（10月23日）

（審議事項）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第8回事務協議会（10月24日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

第2回施設整備委員会（持ち回り）（10月24日）

（議 題）

- (1) 富山大学五福構内除雪用機具庫新営工事に伴う設置場所について

第2回情報処理センター運営委員会（10月25日）

（審議事項）

- (1) 平成元年度決算及び平成2年度予算(案)について
- (2) その他

第79回構内交通対策委員会（10月26日）

（議 題）

- (1) 富山大学五福地区構内交通規制に関する実施細目の見直しについて
- (2) マニュアルの手直しについて
- (3) 大学周辺の無断駐車に対する対策について
- (4) その他

第1回大学入試センター試験実施委員会（10月30日）

（審議事項）

- (1) 平成3年度大学入試センター試験富山大学試験場における富山県立大学の参画について

第8回評議会（臨時）（10月30日）

（審議事項）

- (1) 一部学生の行動に対する対応について

第9回事務協議会（10月31日）

（審議事項）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

学 内 規 則

富山大学教養部規則の一部改正

富山大学教養部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成2年9月21日

富山大学長 大井 信一

富山大学教養部規則の一部を改正する規則

富山大学教養部規則（昭和42年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第4条に次の1項を加える。

- 2 前項の別表1に掲げる日本語及び日本事情に関する科目は、学則第58条第1項の規定に基づく外国人留学生に対して開設するものとする。

第5条第1項に次の1号を加える。

- (4) 外国人留学生が前条第2項に規定する日本語及び日本事情に関する科目を履修し、その単位を修得したときは、別に定めるところにより、これらの単位をもって前各号に規定する授業科目の単位

に代えることができる。

別表1中

「

保 健 体 育 科 目	保 健 体 育	体育講義	1
		保健講義	1
		体育実技	2

」を

「

保 健 体 育 科 目	保 健 体 育	体育講義	1
		保健講義	1
		体育実技	2
日本語及び日本事情に関する科目	日本語・日本事情	日本語	8
		日本事情	6

」に改める。

附 則

この規則は、平成2年9月21日から施行し、平成2年6月8日から適用する。

▶ 富山大学教養部規則の改正理由

国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（平成2年6月8日文部省令第16号）の施行に伴い、日本語・日本事情に関する授業科目を新たに開設し、教育内容の充実を図るため所要事項を改める。



レクリエーション

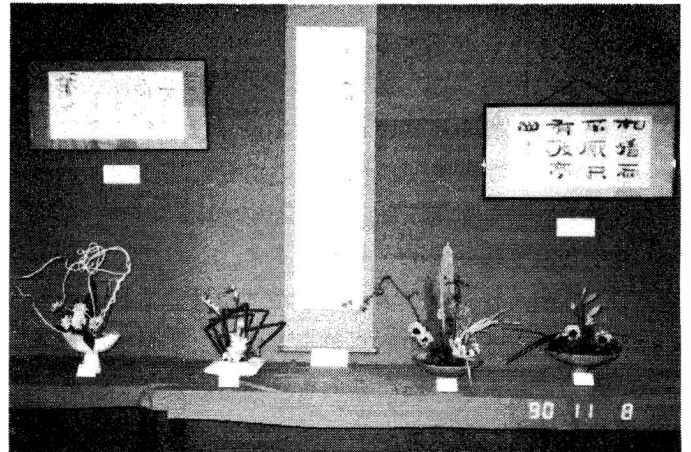
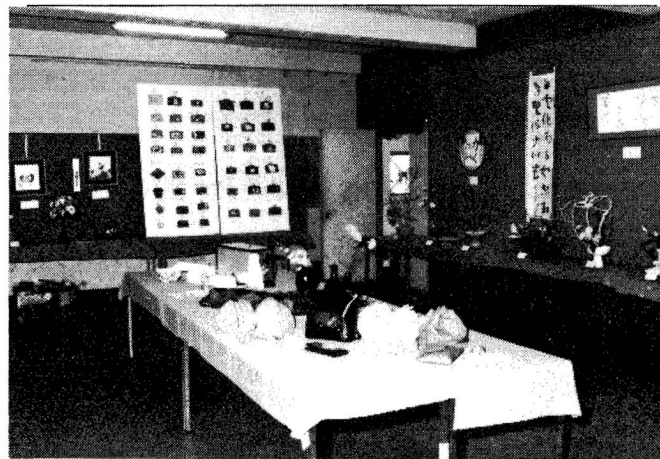


平成2年度教職員文化展

——— 教職員及びその家族から約90点の出展 ———

富山大学レクリエーション委員会文化部会と文部省共済組合富山大学支部の共催により、去る11月7日（水）から11月9日（金）までの3日間にわたって学生会館において、平成2年度教職員文化展が開催されました。

平成2年度（第32回）教育・文化週間にちなんで実施されたこの文化展には、本学教職員及びその家族から出品された華道23点、手芸22点、書道5点、絵画13点、写真18点及び盆景7点が展示され、出展者の多彩な趣味・特技には目を見張るものがあり、大変好評を博しました。



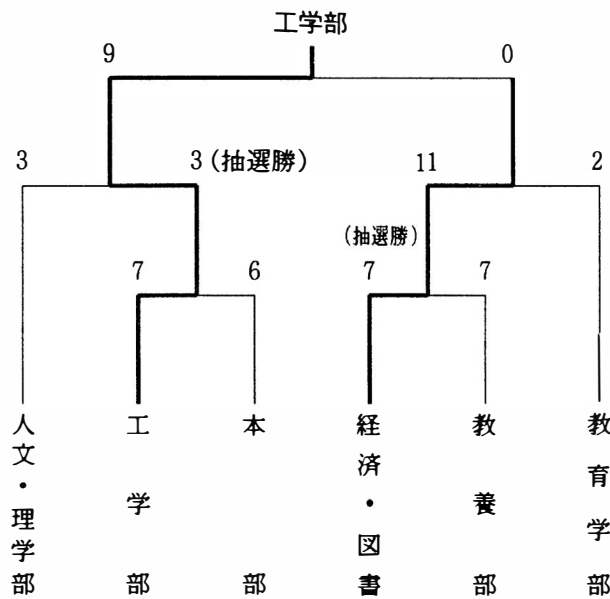
学内レクリエーション

〈学内野球大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会野球班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成2年度部局対抗野球大会が、9・10月の昼休みを利用して本学グラウンドで実施され、熱戦が繰り広げられました。

なお、成績は次のとおりでした。

- 優勝 工学部チーム
- 次勝 経済学部・附属図書館チーム



▲ 気合いの入った優勝決定戦（10月25日）

〈学内バドミントン大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会バドミントン班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成2年度学内バドミントン大会が、去る10月13日（土）本学体育館において実施され、熱戦が繰り広げられました。

なお、成績は次のとおりでした。

- 優勝 本部チーム
- 次勝 教養部チーム

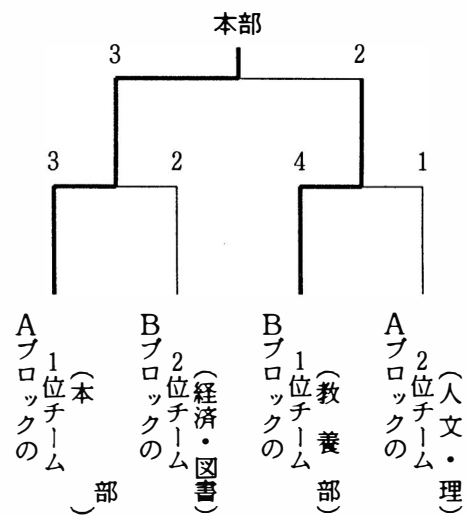
予選Aグループ

予選Bグループ

	本 部	人 文・ 理 学 部	工 学 部	順 位
本 部	-	4-1	5-0	1
人 文・ 理 学 部	1-4	-	3-2	2
工 学 部	0-5	2-3	-	3

	教 育 学 部	経 済・ 図 書 館	教 養 部	順 位
教 育 学 部	-	2-3	1-4	3
経 済・ 図 書 館	4-1	-	1-4	2
教 養 部	4-1	4-1	-	1

(決勝トーナメント戦)



〈学内卓球大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会卓球班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成2年度学内卓球大会が、去る11月10日（土）本学第2体育館において実施されました。

本大会は、各部局から選抜された約50名の参加者を得て、団体戦及び個人戦により熱戦が繰り広げられ、成績は次のとおりでした。



▲ 寒さを吹き飛ばし、熱気が溢れた卓球大会

団体戦予選リーグ戦

〈Aリーグ〉

	本 部	教育学部	工 学 部	順位
本 部		3-2	1-4	2位
教育学部	2-3		1-4	3位
工 学 部	4-1	4-1		1位

〈Bリーグ〉

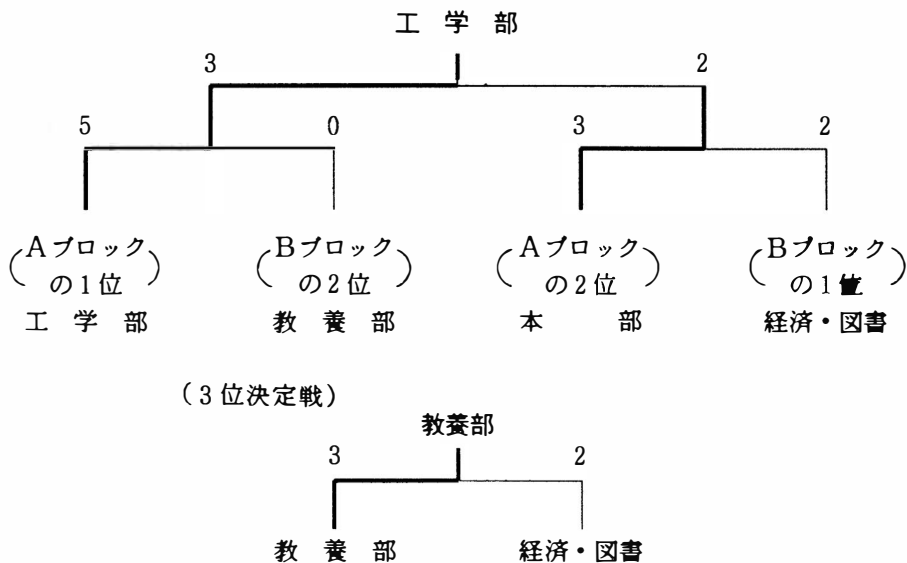
	教 養 部	人文学部 ・理学部	経済学部 ・図書館	順位
教 養 部		3-2	2-3	2位
人文学部 ・理学部	2-3		2-3	3位
経済学部 ・図書館	3-2	3-2		1位

- 団体戦 優 勝 工学部チーム
- 次 勝 本部チーム
- 3 位 教養部チーム

- 個人戦（男子の部）
- 優 勝 寺 尾 清 志（附属図書館）
- 次 勝 小 林 司（教 養 部）
- 3 位 絹 石 達 也（教育学部）

- 個人戦（女子の部）
- 優 勝 絹 石 世志子（附属図書館）
- 次 勝 神 名 智 子（附属図書館）
- 3 位 安 田 京 子（工 学 部）

団体戦決勝トーナメント戦



海外渡航者

(平成2年9月)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	経済学部	助教授	志津田一彦	アメリカ合衆国 連合王国 ドイツ連邦共和国	「海事先取特権・抵当権(船舶担保物権)の比較法的分析」の研究	2.9.1 } 2.10.31
	理学部	助手	川田 邦夫	ブ ー タ ン	ブータン・ヒマラヤ氷河の調査	2.9.19 } 2.10.3
	工学部	助教授	上羽 弘	アメリカ合衆国 カナダ	第6回固体表面の振動に関する国際会議に出席及び表面振動現象に関する研究討論	2.9.9 } 2.9.25
	"	教授	女川 博義	オ ラ ン ダ	第6回ディスプレイ研究国際会議に出席及び討論, 研究資料収集	2.9.23 } 2.9.30
	"	講師	桑原 道夫	"	"	"
	教養部	教授	中越 矩方	スイス, フランス オーストリア	代数体の類数の研究	2.9.4 } 2.11.3
海外研修旅行	経済学部	助教授	西村 秀二	大 韓 民 国	行刑施設見学並びに刑法・少年法の研究会出席	2.9.16 } 2.9.20
	"	"	長久 良一	アメリカ合衆国	数理経済学・ゲーム理論・社会的選択理論に関する研究	2.9.30 } 3.9.30
	理学部	"	佐竹 洋	オーストラリア	第7回国際地質年代学・宇宙年代学・同位体地質学会議に出席	2.9.18 } 2.9.30
	教養部	教授	桂木 健次	ソビエト連邦	極東・シベリア地域における環境問題の調査研究	2.9.3 } 2.9.17
	"	"	藤井 昭二	"	"	"
	"	助教授	奥村 譲	連 合 王 国	14世紀写本及び15世紀刊本における英語方言の研究	2.9.3 } 3.10.3
	"	教授	気賀澤保規	中華人民共和国	第1回法文寺文化国際シンポジウムに出席及び資料収集	2.9.7 } 2.9.19
	"	講師	井上 逸兵	アメリカ合衆国	文化記号論的アメリカ研究に関する研究資料収集	2.9.22 } 2.9.29

(平成2年10月)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	助教授	末原 達郎	フランス, ベルギー ザイール, ルワンダ	アフリカ・イスラームにおける都市-農村関係の動態比較研究のため	2.10.20 } 3.2.20
	教育学部	教授	永野 弘	アメリカ合衆国	第6回国際冷凍機会議に出席のため	2.10.23 } 2.10.30
	教育学部 附属学校	教 諭	小澤 潮	ハンガリー フランス, スペイン アメリカ合衆国	諸外国の教育・文化の実情を視察し, 国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高める	2.10.25 } 2.11.18

外国出張	理学部	教授	杉田 吉充	中華人民共和国	「結晶成長と評価－Ⅲに関するシンポジウム」に出席及び研究打合せ	2.10.7 } 2.10.20
	"	"	佐藤 清雄	アメリカ合衆国	第35回磁性と磁性材料に関する年会議に出席及び研究打合せ	2.10.27 } 2.11.7
	工学部	"	時沢 貢	中華人民共和国	第2回アルミニウム合金国際会議に出席及び研究資料の収集	2.10.8 } 2.10.15
	"	助教授	松木 賢司	"	"	"
	"	文部技官	松田 健二	"	第2回アルミニウム合金国際会議に出席	2.10.8 } 2.10.14
	"	助手	山田 茂	連合王国, カナダ, アメリカ合衆国	合成多結晶ダイヤモンド工具の削能と摩耗機構に関する研究	2.10.22 } 3.8.21
海外研修旅行	人文学部	教授	藤井 一行	ソビエト連邦	イルクーツク諸大学における外国語教育の視察及び学術交流	2.10.8 } 2.10.15
	経済学部	"	武井 勲	シンガポール	リスク・マネジメントの国際会議に出席のため	2.10.27 } 2.11.1
	"	助教授	酒井 富夫	大韓民国	日韓学術セミナー「農政改革の国際比較」に出席のため	2.10.28 } 2.11.1
	工学部	助手	高橋 隆一	アメリカ合衆国	第35回磁性理論・磁性材料会議に出席及び磁障膜に関する研究資料の収集	2.10.27 } 2.11.3

(平成2年11月)

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	講師	岩井 瑞枝	連合王国 フランス	16-17世紀のインプレッサに関する資料閲覧のため	2.11.27 } 2.12.16
	工学部	助手	高橋 隆一	アメリカ合衆国	1990年秋季材料科学会議に出席及び多層電子デバイスに関する研究資料の収集	2.11.26 } 2.12.2
	教養部	助教授	竹内 章	フランス	KAIKO-NANKAI計画「沈み込み帯の流体に関する国際会議」に出席及び研究打合せ	2.11.4 } 2.11.13
	"	"	"	中華人民共和国	日中地震予知研究のため	2.11.19 } 2.12.2
海外研修旅行	人文学部	教授	平田 純	アメリカ合衆国	CCAS (アメリカ人文・理学部会議) の総会出席及び学術交流	2.11.13 } 2.11.27



訃 報

富山大学名誉教授 植木忠夫氏逝去



本学名誉教授植木忠夫氏が、平成2年11月11日、心不全のため逝去されました。享年91歳。

同氏は、昭和3年3月東北大学理学部を卒業と同時に富山高等学校講師、同年6月同教授、昭和24年6月富山大学発足と同時に教授

となり、同40年3月停年により退官されました。

また、退官後は、昭和49年3月まで富山女子短期大学教授として勤務され、この間40年余りに亘り、温厚誠実、明朗にして、しかも恵まれた健康と不撓不屈の熱意をもって学校教育の向上と研究に尽力され、幾多の英才を育成するとともに地方における教育、文化の発展に多大の貢献をされました。

同氏は、富山高等学校着任以来富山県の生物相分布の解明を研究の主眼とされ、特に、ミクリガ池やミドリガ池、地獄谷などの湖沼を中心に立山・有峰盆地の動物相や環境条件の調査に当たられ、「立山四湖の陸水学的研究」、「スズリガ池」、「立山山系とその周辺地域における小哺乳類、有尾両棲類」など鳥獣、淡水魚の生態分布や陸水学的研究に関する60余篇の著書論文を学界誌に発表されました。

学内では、評議員を2期併任、その他補導協議会委員、一般教育委員会委員、文化部会委員等本学運営のため幾多の委員を歴任され、特に、昭和30年8月学生相談所創設とともに委員を委嘱されてより退官に至るまでの間、寝食も忘れてその任に尽瘁されました。

また、富山大学在任中は、学生の課外活動指導にも力を注がれ、富山大学フィルハーモニー管弦楽団や富山大学男声合唱団を創設、退官後も富山大学フィルハーモニー管弦楽団顧問として指導に当たられ学生に親しまれました。その他、富山大学ワンダーフォーゲル部、富山大学学生文化研究会等の顧問としてもよき指導者であり、血の通った教育に研究の余暇を捧げられました。

学内では、自然環境の保全に力を注がれ、特に、日本における氷河時代の遺存動物である特別天然記念物「雷鳥」の保護増殖について研究されるとともに、昭和36年に日本で初めて「県の鳥」として特別天然記念物の雷鳥が指定された際も、これを県知事に進言されました。また、特別天然記念物「カモシカ」についても研究され、人工増殖にも成功されました。

また、退官された昭和40年10月から同43年10月まで富山県教育委員会委員、引き続き同44年10月まで同委員会委員長を勤め、富山県の教育行政に指導的役割を果たされました。更に、富山歩こう会創設者、会長として健康な社会建設に精進されるとともに富山県自然環境保全審議会委員、富山県文化財専門委員会委員、富山県観光事業審議会委員、富山県生物学会会長等を歴任されました。

これらの功績により、昭和40年4月富山大学名誉教授の称号を授与され、次いで、同45年4月には勲三等旭日中綬章を受けられるとともに、同47年5月の環境庁長官賞、同52年5月の日本野鳥保護連盟総裁宮賞等々多くの賞を受賞されました。

ここに、同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。



職 員 消 息

《新任者住所》

事務局

文部事務官 松田 信和
(主計課管財係)

教育学部

講 師 市川 文彦
(経済学)

経済学部

教 授 松川 磁
(政策科学)

教養部

助 教授 吉田 俊則
(歴史学)

講 師 水谷 秀樹
(保健体育)

教育学部附属小学校

教 諭 杉本 豊一
(算 数)

教育学部附属養護学校

教 諭 松田 由美
(中学部)

経済学部

教 授 中島 信之
(管理科学)

〈経営統計〉

文部事務官 作井 功
(庶務主任)

文部技官 米山 嘉治
(生物反応化学)

教養部

講 師 上野 隆三
(中国語)

《住所変更》

人文学部・理学部

事務補佐員 亀谷 順子
(物理学科)

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心掛けましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

—シリーズ—

郵便豆知識 ⑤

国際郵便

前回から国際郵便の紹介を行っていますが、今回は国際郵便の「あて名の書き方」及び「包装の仕方」について特集します。

あて名の書き方

◎ 一般的な書き方

郵便番号 167

東京都杉並区 荻窪1丁目2番3号

大和 道

1行目 氏名
2行目 街区符号—住居番号、町名丁目 (又は番地)
3行目 市町村名、都道府県名
4行目 郵便番号 国名

From:
Susumu Yamato
2-3, Ogikubo 1 chome
Suginami-ku, TOKYO
167 JAPAN

航空票符等の
ちょう付

切手

To:
Mr. Harold Jones
3025 Theresa Street, Apt. 301
Arlington, VIRGINIA 22207
U. S. A.

1行目—受取人氏名
2行目—ルームナンバー、住所番号、街路名
3行目—都市名、地方名、州名、郵便番号
4行目—国名(アンダーラインを引く)

● 郵便私書箱利用の場合
大阪市大坂東郵便局私書箱18号
岩田出版株式会社
Iwata Shupan Co., Ltd.
P.O.BOX 18, OSAKAHIGASHI OSAKA
540-91 JAPAN

差出人の住所氏名

受取人住所氏名(中央又は右側)

遠く、確実に返信を受け取るためにも差出人住所氏名を「正確・完全」に記載することが大切である。

◎差出人を中央部等に記載すると受取人と誤認される恐れがあるので、受取人・差出人の記載位置に注意すること。

※漢字でもよい国：韓国・朝鮮民主主義人民共和国・台湾及び中華人民共和国

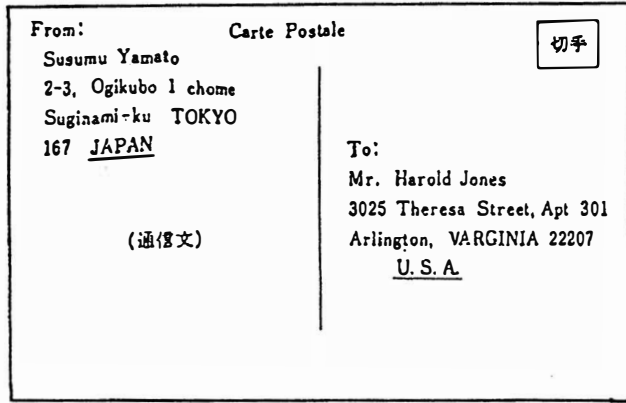
※次の国名は、略記したり、略称を書く場合があるので注意のこと。

- 大韓民国..... Republic of Korea
- 朝鮮民主主義人民共和国..... Democratic People's Republic of Korea
- 中華人民共和国..... People's Republic of China

- 差出人の住所には郵便番号を
- 受取人にTo：差出人にFrom：を
- 名あて地名(地方名・州名等・日本の例では都道府県名)・国名は大文字で(VIRGINIA,U.S.Aなど)
- 国名にアンダーラインを

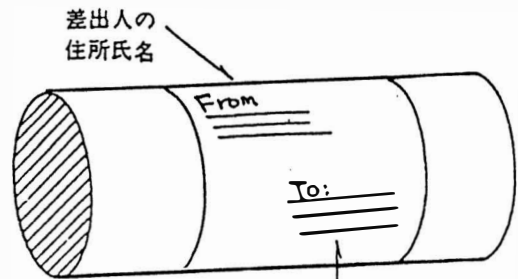
◎ 郵便葉書

(表面)



少なくとも右半分はあて名及び業務上の記載、票符のちょう付にあてる

◎ 巻物体のもの



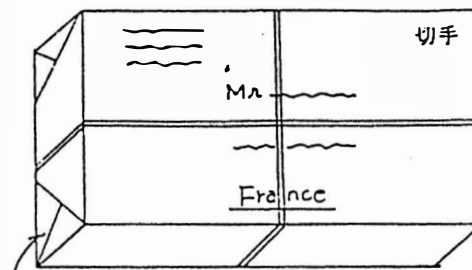
受取人住所氏名

帯紙でまとった包装の場合は、あて名は帯紙に記載しなければならない。

包装の仕方 (書状は、密封扱いですのでその他の国際郵便物の包装の仕方です。)

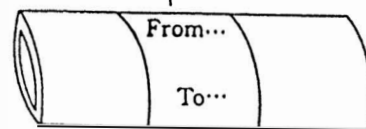
..... 開 封

- 包装紙で包み、ときやすいひもをかける。

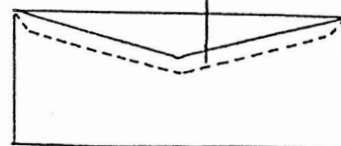


「ノリ」や「セロテープ」でとめないこと。

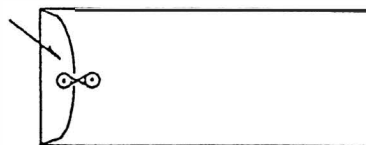
- 帯封をする。(新聞紙など)



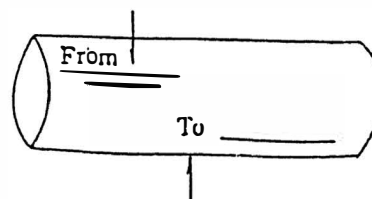
- ふたを中に折り込む。(クリスマス・カードなど)



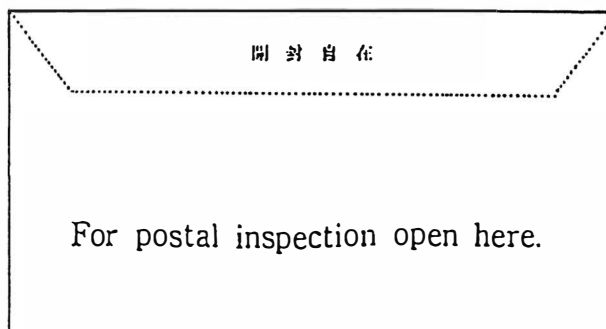
- ふたをとめやすいひもか、とめ具でとめること。
 { 鋭利なとめ金は使用を禁じられている。 }



- 円筒の場合、差出人と受取人が明らかにわかるようにすること。
 { 左上部に差出人、中央から右にかけて受取人住所氏名 }



- 粘着テープ又は、粘着剤で開封自在の封をする。ただし、この場合、封じ目に「開封自在」及び英文で印刷すること。



※ ホッチキスの使用、封筒の片すみの切取りは開封とされない。



	(於：まきび会館)	14日	前学期授業終了
19日	第7回評議会	17日	学部防火管理定期査察
	第5回学寮補導委員会	18日	係長会議
22日	第2回富山県留学生等交流推進会議運営委員会	19日	富山消防署立入検査
22～23日	健康診断(循環器)	26日	教授会
22～31日	平成2年度北陸地区国立学校事務電算化担当職員研修会 (於：辰口共同研修センター, 金沢大学)		人事教授会
23日	科学研究費補助金の実地調査 第4回補導協議会	28日	9月卒業生の卒業証書授与式 事務連絡会
23～25日	平成2年度国立学校事務長研修 (於：国立教育会館)	10月8日	物品定期検査
24日	第2回施設整備委員会(持ち回り) 第8回事務協議会	11日	学部教務委員会 教授会
25日	第2回情報処理センター運営委員会		人事教授会
25～26日	健康診断(循環器) 第11回国立大学等研究協力部課長会議 (於：仙台ガーデンパレス)		特定研究に関する打合せ会
26日	第72回東海・北陸地区国立大学学生部課長会議 (於：福井パレスホテル)	12日	専門教育課程移行者オリエンテーション 事務連絡会
26日	第79回構内交通対策委員会	15日	後学期授業開始
29日	水素同位体機能研究センター設立記念講演会	23日	学部補導委員会
30日	第8回評議会(臨時) 教育訓練(放射性同位元素総合実験室) 第1回大学入試センター試験実施委員会	24日	第13回17大学人文系学部事務長会議 (於：鹿児島大学)
31日	第9回事務協議会 大学ガイダンスセミナー (於：石川県婦人生活会館)	25～26日	第33回17大学人文系学部長会議 (於：鹿児島大学)
		31日	学部ソフトボール・バレーボール大会

教育学部

9月1日	附属中学校第2学期始業式 附属養護学校第2学期始業式 附属幼稚園第2学期始業式
3～5日	教員養成実地指導(事前指導)
5日	学部予算委員会 教育実習運営協議会 学部教務補導合同委員会 学部教務委員会
6日	自然観察実習センター運営委員会
7日	学部入学者選抜方法検討委員会 学部補導委員会
10～12日	平成2年度教員養成学部学生合宿研修(秋季) (於：国立立山少年自然の家)
12日	教授会 人事教授会 学部教務委員会
13日	学部予算委員会

人文学部

9月5日	教官特別昇給委員会 学部入学者選抜方法検討委員会 人文科学研究科教務等検討委員会
7日	予算委員会
8～9日	真率会レクリエーション(宇奈月温泉)
11日	事務連絡会
12日	教授会 人事教授会 人文科学研究科委員会

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 学部等図書委員会 | 人事教授会 |
| 論集委員会 | 12日 専門教育課程移行者オリエンテーション |
| 財務委員会 | 事務連絡会 |
| 学部教務委員会 | 15日 後学期授業開始 |
| 学部施設整備委員会 | 学部入試改善委員会 |
| 教授会 | 22日 学部補導委員会 |
| 日本海経済研究所運営委員会 | 25日 国立22大学理学部長会議 (於：学士会館) |
| 12日 専門教育課程移行者オリエンテーション | 26日 第8回国立大学理学部長会議 |
| 15日 後学期授業開始 | (於：学士会館) |
| 17日 学部将来構想検討委員会 | 31日 学科主任会議 |
| 22~23日 国立11大学経済・経営学部教官懇談会 | |
| (於：富山大学) | |
| 24日 学部補導委員会 | |
| 論集委員会 | |
| 教授会 | |
| 助手室業務運営委員会 | |
| 26日 係長会議 | |
| 31日 日本海経済研究所運営委員会 | |
| 学部教務委員会 | |

工 学 部

- 9月
- 4~5日 大学院工学研究科入学試験
- 6日 学部入学試験検討委員会
- 7日 学部概要編集委員会
- 10日 学部将来計画委員会
- 学部教務委員会
- 11日 教官待遇改善検討委員会技官部会
- 12日 教授会
- 工学研究科委員会
- 専任教授会
- 13日 博士課程設置準備委員会
- 14日 学部図書委員会
- 大学院工学研究科合格者発表
- 19日 富山消防署立入検査
- 20日 博士課程設置準備委員会
- 21日 係長連絡会
- 28日 博士課程設置準備委員会
- 選考委員会
- マレーシア学位認定調査団視察
- 10月1日 学部概要編集委員会
- 物品定期検査
- 3日 工場運営委員会
- 4日 学部概要編集委員会
- 技官待遇改善検討委員会技官部会
- 4~5日 第14回国立大学47工学系学部部長会議
- (於：鹿児島大学)
- 5日 学部教務委員会
- 9日 学部将来計画委員会
- 11日 教授会

理 学 部

- 9月3日 学科主任会議
- 5日 教授会
- 人事教授会
- 6~7日 大学院理学研究科(修士課程)入学者選抜試験
- 8~9日 真率会レクリエーション(宇奈月温泉)
- 10日 学術講演会
- 11日 事務連絡会
- 12日 理学研究科委員会
- 14日 大学院理学研究科(修士課程)合格者発表
- 前学期授業終了
- 17日 学部防火管理定期査察
- 18日 係長会議
- 19日 富山消防署立入検査
- 21日 学科主任会議
- 28日 事務連絡会
- 10月8日 物品定期検査
- 9日 学部入試改善委員会
- 11日 動物実験委員会
- 教授会

工学研究科委員会

専任教授会

博士課程設置準備委員会

11～12日 第43回国立大学工学系事務長会議
(於：長崎大学)

12日 専門教育課程移行者オリエンテーション
係長連絡会

15日 後学期授業開始

17日 学科主任会議

18日 技官待遇改善検討委員会技官部会

24日 学部補導委員会

教授会

25～26日 第23回北陸信越地区国立大学工学部長会議
(於：信州大学)

29日 共通機器運営委員会

30日 係長連絡会

31日 温交会役員会

教 養 部

9月4日 教務委員会

5日 人事教授会

教授会

19日 富山消防署立入検査

10月1日 将来計画委員会

2日 物品定期検査

3日 内地・在外研究員に関する委員会

8日 教務委員会

9日 教授会

15日 後学期授業開始

夜間主コース後学期授業開始

18日 健康診断(胃検診, 肝機能検査)

20～21日 親和会レクリエーション

(於：庄川・薬師温泉)

22日 補導委員会

24～25日 12大学教養部長・事務長連絡会議

(於：鹿児島大学)

25日 健康診断(心電図, 血圧, 尿)

31日 将来計画委員会

補導委員会

附属図書館

9月5日 係長事務打合せ会

19日 富山消防署立入検査

20日 係長事務打合せ会

10月2日 係長事務打合せ会

3日 物品定期検査

25日 係長事務打合せ会

水素同位体機能研究センター

9月17日 人文学部, 理学部, 教養部及び水素同位体
機能研究センター防火管理内規に基づく定
期査察

19日 富山消防署立入検査

10月1日 自家用電気工作物の立入検査

9日 物品定期検査

23日 科学研究費補助金調査

29日 水素同位体機能研究センター設立記念講演
会

地域共同研究センター

9月13日 新潟大学関係者視察

20日 富山大学先端技術研修「メカトロコース」
(10月6日まで)

28日 マレーシア学位認定調査団視察

10月4日 鹿児島県関係者視察

5日 先端企業見学研修

6日 先端技術研修「メカトロコース」閉講

9日 経営者・研究者交流会実行委員会

18～19日 第2回国立大学共同研究センター長会議
(於：熊本大学)

23日 文部省関係者視察

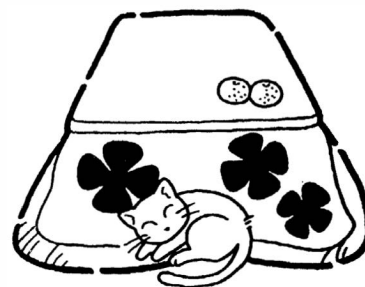
29日 東北大学関係者視察

31日 室蘭工業大学関係者視察

保健管理センター

10月

- 2～3日 全国大学保健管理研究集会（於：東海大学）
- 4日 第2回国立大学保健管理施設協議会
（於：新潟大学）
- 15日 胃検診及び肝機能検査（本部，経済学部，
附属図書館，水素同位体機能研究センター，
保健管理センターの職員）
- 16日 “ （教育学部の職員）
- 18日 “ （人文学部，理学部，教養部の
職員）
- 19日 “ （工学部，地域共同研究センター
の職員）
- 22日 循環器検診及び尿検査（本部，経済学部，
附属図書館，水素同位体機能研究センター，
保健管理センターの職員）
- 23日 “ （教育学部の職員）
- 25日 “ （人文学部，理学部，教養部の
職員）
- 26日 “ （工学部，地域共同研究センター
の職員）



編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755代